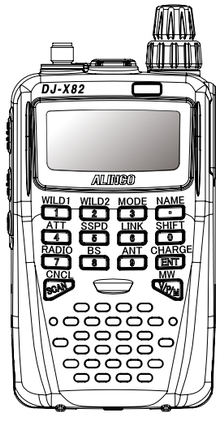
COMMUNICATIONS RECEIVER

DJ-X82

クイックガイド



お断り

本書は具体的に説明することを目的に実際の周波数や地名を引用していますが、これらは変更されたりデータが編集されたりして変わることがあります。あくまで参考とお考えください。

＊このクイックガイドは DJ-X82 を使い始めるのに必要な操作を、順を追ってまとめたものです。必ず注意書きから順に最後まで読みながら操作してください。途中から読むと正しく操作できない事があります。

＊ウェブサイトで公開している取扱説明書も必ずお読みください。
ここに書かれていない便利な使い方や機能が説明されています。

＊ここに記載の安全、使用上の注意は抜粋です。

＊同梱の保証書、周波数データリストなどの書類も必ず保存してください。

国や地域によってはレシーバーは持ち込みや使用に厳しい制限があり、違反すると罰せられます。本機は日本の規格に準拠した国内向け製品です。海外の規格認証は受けていません。

This product is intended for use only in Japan. FCC/CE and other foreign approvals are not granted. The use of communications receivers is restricted in many countries.

アルインコ株式会社　電子事業部

〒541-0043　大阪市中央区高麗橋４丁目４番９号　淀屋橋ダイビル１３階　TEL.06-7636-2361

本文中ではTM、®などのマークを省略しています。本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは禁止されています。

PS1146
FNFH-NK

Copyright Alinco,Inc.

Printed in Philippines

ご注意　（必ずお読みください）

ここに掲載の注意は、このクイックガイドを読んで本機を使い始めるにあたって必要と思われる重要な注意事項だけを抜粋したものです。必ず取扱説明書の注意事項をお読みください。取扱説明書をお読みにならないで発生する事故やトラブルは、賠償責任が発生しない限り責を負いかねます。

⚠ 警告

自動車等の運転中に操作しないでください。交通事故の原因となります。
運転者が操作するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に手に持って使ったり、表示を注視したりすると道路交通法違反で罰せられます。
運転中のイヤホンの使用は、ほとんどの自治体で条例違反です。

- 航空機内のような電子機器の使用が禁止、制限されている場所では電源を入れないでください。安全運航に支障をきたします。
- 本機は防爆仕様ではありません。
  そのような環境下でお使いになっての事故やトラブルは責任を負いかねます。
- この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

⚠ 注意

- 本機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。感電・故障の原因となります。
- 水をかけたり、ほこりが入ったりしないようにご注意ください。故障の原因となります。
  本機は防水・防塵仕様ではありません。
- イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になります。
- 湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。感電・故障の原因となることがあります。
- 直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、温度が高くなる場所には置かないでください。冬季でも内部の温度が上がり、変形・変色したり、発熱の原因となることがあります。
- 廃棄するときは自治体の指定する方法で家電ごみとして処分できます。電池は地域の指定する方法でリサイクルしてください。
- 電池が液漏れして皮膚や衣服に付着したときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
  口や目に入った時は医師にご相談ください。

異常時の処置について

- 以下の場合は、すぐに本体の電源を切り、USBアダプターをご使用の場合は、コンセントから抜いてください。異常な状態で使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
  修理はお買い上げの販売店、または弊社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、絶対にお止めください。弊社指定の技術員以外が手を入れた製品は修理をお断りしています。
  - □ 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
  - □ 落としたり、ケースを破損したりしたとき
  - □ 内部に水や異物が入ったとき
- 雷が鳴り出したら安全のために本体の電源を切り、アンテナを外し、USBアダプターをご使用の場合はコンセントから抜いてください。電源やアンテナのケーブルを通る雷害を防止するためです。
  屋外での使用時、雷が聞こえたらすぐに安全な屋内に避難してください。

■使用上のご注意

他人の居る場所で使用する場合は必ずイヤホンをお使いください。周囲の迷惑になります。

■電波法上のご注意

国内での本機の使用に資格や免許、許可は必要ありませんが、受信して知り得たことを発信者に無断で公開、使用すると罰せられます。放送以外、音声もデータも全ての通信が対象です。

＊第 59 条（秘密の保護）
何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信（中略）を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。

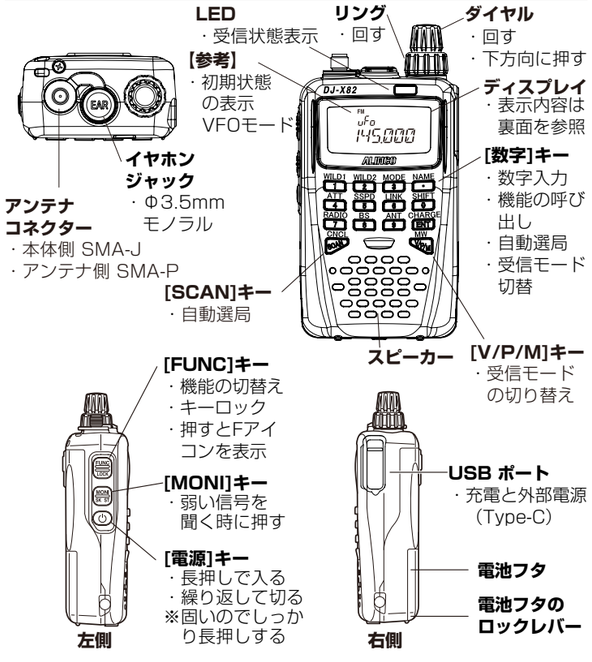
＊第 109 条　無線局の取扱中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1 年以下の懲役又は 50 万円以下の罰金に処する。2　無線通信の業務に従事する者がその業務に関し知り得た前項の秘密を漏らし、又は窃用したときは、2 年以下の懲役又は 100 万円以下の罰金に処する。

付属品

■本機　■本書　■保証書　■周波数データリスト　■USBケーブル
■アンテナ ■充電池×2 EBP-179　■ベルトクリップ EBC-28(装着済)

不足があればすぐに購入元にご相談ください。別売オプションと付属品のスペアはアルインコ電子事業部HPをご覧ください。

各部の名称と働き　- 必ず覚えてください -



キー（ボタン）とダイヤルの操作方法

■キー操作は「キーを押す」「押し続ける」「長押しする」の3種類があります。

本文中、**「押す」は一度しっかりそのボタン (キー) を押してすぐ指を離す**ことを言います。長く押すと、違う動作をして操作が分からなくなります。たいていはもう一度長押しすることにより、元の動作に戻ります。**「押し続ける」はボタンを1度押して指を離さない**ことを言います。**「長押しする」はボタンを押した後、しばらく押し続けて指を離す**ことを言います。操作できないときのほとんどが「押す」を長押しされていることや押す力が足りないことに起因しています。[電源]キーは軽く振れた程度で電源が切れないよう、固めのキーになっています。しっかり押してください。

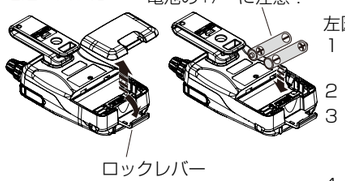
※ダイヤルは回すだけでなく押し下げることができます。

準備

アンテナの接続　- アンテナをつけないと受信できません -

右図のように時計方向に、止まるまでねじ込みます。
反対方向に回せば外れます。外部アンテナを接続するときはSMAコネクターのものをお使いください。

電池の入れ方

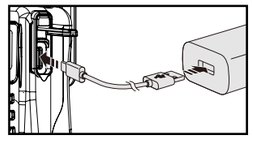


左図を参照してください。
1：ロックレバーを下方向に押して外す。
2：電池フタを外す。
3：付属の充電池または市販の単三アルカリ乾電池を入れる。(リチウム乾電池は使用可)
4：電池フタをはめて、「パチン」と鳴るまでロックレバーを戻す。

ベルトクリップ

取り付けた状態で出荷しています。不要ならプラスドライバーNo.2 で取り外せます。イヤホンのプラグにストレスが掛かることを避けるために突起しています。

充電池(EBP-179)の充電



1：右側面上部の USB ポートのキャップを開け、USB ケーブルの Type-C 側を接続します。
2：USB ケーブルの Type-A 側を市販のUSBアダプターに接続してAC100Vのコンセントに接続します。

重要　・ディスプレイ右上隅に[ ]アイコンが表示されたら充電または電池交換してください。電池残量が多い時は表示されません。また、充電タイプをONまたはON--LEDに設定した時、USB給電中はアイコンが点滅します。

充電タイプ変更

[FUNC]キーを押した後、[ENT]キーを押すと「CHArGE」が表示されます。ダイヤルを回して好みの充電方法を選び、[FUNC] キーを押して確定します。ONまたはON--LED設定時、10時間充電して自動終了します。

- **ON ：**電源を切った時だけ [CHG ＋充電の残り時間] をカウントダウンで表示します。
- **ON -- LED：**充電中はLEDが赤点灯、信号受信すると点灯色が変わります。電源を切っていると [CHG ＋ 充電の残り時間] をカウントダウンで表示します。
- **OFF：**充電しません。モバイルPCで編集ソフト使用時、PCから充電させない設定です。戻し忘れにご注意ください。

市販品の USB アダプターの動作不良は製品保証の対象外です。信頼できる製品をお使いください。モバイルバッテリーも充電に使用できますが、製品保証の対象外です。 USB アダプターはノイズを発生して、受信に影響することがありますが製品の異常ではありません。

重要　・他にも充電と電池に関してご注意いただきたい重要なことがありますので、必ず取扱説明書をお読みください。
・お買い上げ直後は充電池を充電してからお使いください。
・弱電流で所定時間充電するトリクル方式です。
・充電が完了するとディスプレイの表示が「bAtt FULL」になります。

VFOモード/[数字]キーとダイヤル操作, リセット, 音量, ステップ, キーロック

＊知っている周波数を入力して受信するときに一番簡単な方法です。
ACARS（エーカーズ）131.25MHzと131.45MHzはデータ通信ですが空港から離れた場所で一番受信しやすい航空無線です。これが受信できれば音声通信も受信できます。また説明のために一度リセットしてください。

■周波数を手動で入力して受信させる方法を説明します。

1：電源を切り、[FUNC]キーを押したまま電源を入れ、ディスプレイの全体表示が出たら指を離すと、リセットできる。
「FM vFo 145.000」の表示になる。
「vFo」の表示がVFOモードの目印です。

【参考】次からはリセットせずに [V/P/M] キーを押すだけで構いません。操作がわからなくなったら、まずはリセットして初めからやり直します。

2：[数字]キーで[1][3][1][.][2][5]と押し、表示が「131.25」になったら[ENT]キーを押す。「131.250 AM」と表示される。
「電波形式切り替え」が初期状態のAUTOモードでは電波型式AMは自動設定されます。

3：[電源] キーの上の[MONI]キーを押し続けると「ザー」とノイズが聞こえるのでリングを回し、適当な音量にする。
[MONI]キーを離すと「ザー」というノイズが消えます。

4：「ピギャ、ピ～ギャギャ」と断続的に聞こえる信号を待ち受けする。
飛行機が多く飛んでいる時間帯に、空が広く見えるベランダや屋外に出て試してください。日本中どこでも受信できます。受信できたら周波数データリストの「バンク２ エアバンド　カンパニー」で大手航空会社の「ER=エンルート」と説明がある周波数に合わせて待ち受けしてください。「バンク０」のACCも上空からの信号です。

5：音声信号が途切れて聞こえるときは[MONI]キーを押し続ける。
「ザー」というノイズをカットするスケルチを一時的に開いて、弱い電波が拾いやすくなります。指を離すとスケルチが閉じます。

6：ダイヤルを回しても周波数が変わる。
25(kHz)ずつ数字が上下に変わります。[FUNC]キーを押したままダイヤルを回すとMH z 単位で大きく数字を変えられます。
※ [FUNC]キーを押したらすぐにダイヤルを回さないと「ピピピ」と鳴ってキーロックになり、操作できなくなります。
もう一度 [FUNC]キーを長く押し、解除してやり直します。誤操作を防止するため、キーやダイヤルの動きを制限するのがキーロックです。

■ステップを変更する。

【参考】ステップは割り当て周波数の間隔で、本機のダイヤルのワンクリックで変わる幅です。同じエアバンドでも25kHz, 50kHz, 100kHzとバンドによって異なり、FMの通信では12.5kHzや20kHzが多用されます。後述の電波型式とステップを合わせることが無線受信の基本です。また、同じ20kHzでも、VHF業務無線のように148.000から.020,040…ではなく、148.010から .030,050… と奇数が割り当てられるバンドもあります。ステップはVFOモードでしか使いませんが、メモリー登録するとき、正しく周波数を合わせるのにも必要です。

1：VFOモードで[FUNC]キーを押す。

2：すぐ下の[MONI]キーを押すと「AUTO」または「20k」のような数字が表示される。
[MONI]キーを押すごとに交互に切り替わります。

3：数字の画面でダイヤルを回すと「12.5k」,「25k」… のようにステップの値が変わる。
ここでは50kを選びましょう。

4： [FUNC]キーを押すと、「ピ」と鳴ってVFOモードの画面に戻る。
先ほど20ずつ変わったステップが50ずつに変わります。

5：操作を繰り返して「AUTO」に戻す。

【覚えてください】
- **リセット：**電源OFFの後、[FUNC]キー押しながら電源を入れて全体表示が出たら指を離す。
- **VFOモード：**「vFo」が表示される。リセット直後の状態。
- **音量調整：**[MONI]キーを押し続けながらリングを回して「ザー」という音を目安に調整。
- **モニター機能：**信号が弱いときに使う。[MONI]キーを押す。
- **[数字]キー入力**　周波数のMHzはメガヘルツの略。入力するとき左3桁の数字の次は必ず [3] の右隣の[.]キーを押す。
- **ダイヤルを回して周波数を変える：**[FUNC]キーを押したまま回すと大きく変わる。（キーロックに注意）
- **ステップ：**割り当て周波数の間隔、同じエアバンドでも「25kHz」,「50kHz」,「100kHz」とバンドによって異なる。ダイヤルのワンクリックで変わる幅。通常は「AUTO」を推奨。
- **キーロック：**[FUNC]キー長押しでロック。同じ動作で解除。

メモリーモード/受信方法の切替、登録済チャンネル、自動選局

＊DJ-X82に登録されている周波数を受信する方法です。
登録された周波数が無いとメモリーモードは操作できません。

■伊丹空港付近での受信を例に、実際のデータをもとに説明します。
例の118.100MHzは羽田や那覇空港などでもタワーに割り当てがあります。例えば千歳空港なら新千歳TWR、118.800MH z 、メモリーCH 019「01 019 118.800 CNTROL」と読み替えてください。

操作 1：あらかじめ知っている周波数をメモリーモードで受信する。
書籍で伊丹空港のタワー管制周波数を調べると「118.100」でした。

1：展望デッキなど、空港の近くで安全に受信できる場所に行く。
【マナー】外で受信するときはイヤホンが必須です。一般的なΦ3.5モノラルイヤホンが使えますが、音質や音量は相性によって変わります。

2：VFOモードから[V/P/M]キーを押すとメモリーモードになり、「00 000 118.900 ACC」のような表示が出る。
分からなければリセットしてから[V/P/M]キーを1度押します。

3：周波数データリストを開いて「バンク１:エアバンド 管制(民間)」を見て、記載されている「118.100」を探す。
伊丹のほかにも複数の空港が118.100MHzに割り当てられています。

4：周波数データリストに記載のバンク番号とメモリーCHを覚える。
バンク番号01、メモリーCH 003、表示はＣＮＴＲＯＬです。

5：[ENT]キーを押しながらダイヤルを回すごとにバンク番号と周波数表示が変わる。左端2桁のバンク番号を01にする。
時計回りで昇順、反対で降順に変わります。
「01 000 118.000 CNTROL」が表示されます。

【参考】[ENT]キーを押しても1つずつバンク番号が変わります。

6：ダイヤルを回して3桁のメモリーCHを003に合わせ、表示を「01 003 118.100 CNTROL」にする。

7：[電源]キーの上にある[MONI]キーを押し続けると「ザー」と音が鳴るのでリングを回し、適当な音量にして指を離し、待ち受け受信する。
初めての時はイヤホンを外してください。大きな音で耳を傷めることがあります。[MONI]キーを離すとノイズが消えます。

【参考】「bG 000」のような表示しか出ないときは、メモリーが消去されています。自分で手入力するか、アルインコが提供する無償のPCソフトで編集して書き込みます。

【覚えてください】
- **[V/P/M]キー：**VFOモードとプライオリティモードとメモリーモードを切り替えるキー。ただし、プライオリティモードは設定しないとそのモードには入らない。
- **メモリーモード：**「00 000」のように5桁の小さな数字と周波数、初期状態では周波数表示の代わりに「ACC」や「CNTROL」のような英数字記号が大きく表示される状態。
- **メモリーチャンネル：**メモリーに登録された周波数。全部で1000個あるが、出荷時に多くが登録済になっている。
- **メモリーバンク：**メモリーチャンネルをまとめておく場所。エアバンド、東京都、自宅で聞こえる信号…のように使いやすく区切って使う。
- **メモリーバンク番号(バンク番号)：**表示左端の2桁の数字。
  出荷時は10個だが編集ソフトで50まで拡張可能
- **メモリーチャンネル番号(メモリーCH):**バンクの右側の3桁の数字
  000～999までの1000個。

操作2：自動選局「スキャン」を使う（メモリースキャン）

1：操作1の状態（バンク01）で [SCAN]キーを押す。
数字が自動的に変化して、信号を探し始めます。

2：「01 043 120.450 CNTROL」で止まり、音声が聞こえた。
通信が途絶えたらすぐにスキャンが再開するので、素早く[SCAN]キーを押して止めます。スキャンしているかどうかは数字が止まって見えるかどうかではなく、ドットが点滅しているかどうかで判断します。

3：周波数データリスト「1：エアバンド　管制(民間)」で、43CH/120.450MHｚを探す。
メモリーCH 043　周波数120.450MHｚは関西アプローチ・レーダーの伊丹到着管制と分かります。スキャンを続けると同様に他の周波数でも止まります。信号を受信中にスキャンを再開したいときはダイヤルを回します。

■スキャンしたくないチャンネルをスキップする。(スキャン・スキップ)
航空無線のATIS放送や、一部の乗物無線で使われる音声がない時でも無音信号が常時送信される周波数は必ずスキャンが止まります。これらをメモリースキャンに含めない方法です。
伊丹ATISはバンク01、メモリーCH 133、128.600MHzです。

1：メモリースキャンを止める。
[SCAN]キーを押してドット点滅を消します。

2：[数字]キー[1]を押す。「--1」が表示されたら[数字]キー[3][3]と押すと、「ピ」と鳴って「133」になる。
メモリーCHは[数字]キーでも変えられます。
例：メモリー1＝[1][ENT]/メモリー21＝[2][1][ENT]

3：[FUNC]キーを押した後、すぐ下の[MONI]キーを押す。
周波数やネームの左端に**「SKIP」が点灯**します。次のスキャンから133番はスキップしてスキャンします。同じ操作で解除して「SKIP」が消灯します。

■特定の少数のチャンネルだけ素早く指定してスキャンする。（お気に入り選択）
伊丹空港は118.100 / 118.800 / 119.500 / 120.450 / 121.700 MHzが頻繁に受信できます。

1：メモリーモードで[FUNC]キーを押した後、ダイヤルを押し下げる。
「(DISP)」のような(　)にローマ字が入った「セットモードメニュー」が表示されます。

2：リングを回して「(SCAN)」を選び、ダイヤルキーを押し下げる。
「SLS 2-SEC」のような表示に変わります。

3：リングを回して「SCSP(スキャンスキップ)」を選び、ダイヤルを回して「FAV(お気に入り)」に合わせたら[FUNC]キーを押す。
メモリーモードに戻ります。全てのメモリーチャンネルに「SKIP」が表示され、メモリースキャンできない状態です。

4：[ENT]キーとダイヤルでメモリーバンク01を選び、ダイヤルを回して周波数を「118.100」に合わせる。
メモリーは周波数順に登録されています。ダイヤルを時計方向に回します。

5：[FUNC]キーを押した後、すぐ下の[MONI]キーを押す。
「SKIP」が消え、左下に「＊」が表示されます。

6：上記4と5を繰り返して、伊丹空港の5チャンネル全てに「＊」を表示させたら[SCAN]キーを押す。
5つのチャンネルだけをスキャンします。4と5の操作を繰り返すと「SKIP」が表示され、スキャンから外せます。

7：[FUNC]キーを押した後にダイヤルを押し下げて「SCSP」「FAV」を表示、ダイヤルを回して「SKIP12」を選んで[FUNC]キーを押す。
元のスキップ動作に戻ります。

【参考】通常スキップとお気に入り選択は別々の指定チャンネルを記憶します。どちらも指定数に制限はありません。違うバンクを選んで「ALL」スキャンもできます。

初めて受信する場所では通常のスキップでノイズや放送を飛ばしてスキャンします。スキャンで見つけた信号やあらかじめ調べておいた周波数だけに絞って受信するにはお気に入り選択が便利です。

■スキップにした設定をリセットする。
スキップに設定した周波数を全て解除します。他の設定には一切影響しません。
電源を切り、[SCAN]キーを押したまま電源を入れます。
全表示が出てから指を離すと、スキップとお気に入り選択が初期化されます。

【参考】例えば、旅行中のように受信場所が大きく変わるとき、スキップは簡単に解除できたほうが便利です。見つけたチャンネルはネームを編集したり新しく登録したりしてメモリー保存してください。

【覚えてください】
- **スキャン：**自動選局。[SCAN]キーを押してスタート。もう一度押して止めるドットの点滅は選局中。ダイヤルを回すとスキャン方向が切り替わる。メモリーモードのスキャンはメモリースキャン、VFOモードはVFOスキャン。
- **スキップ：**「SKIP」表示。[FUNC]キーを押した後、その下の[MONI]キーを押すとそのメモリーCHをスキャンから外す。同じ操作で解除。
- **お気に入り選択：**[FUNC]キーとダイヤルを押し下げて入るセットモードでスキップモードを「FAV」にする。SKIPと同様の操作をすると、「SKIP」が「＊」に変化。

メモリーされていない信号を探す/プログラムスキャン

特定の周波数範囲を指定して、その間だけを一定のステップで繰り返しスキャンします。DJ-X82のプログラムスキャンはPSメモリーチャンネルのA/BペアのA側に登録した電波型式とステップでスキャンします。
出荷時に**24個**のペアが登録されています。ここではVHF業務無線のバンドをスキャンします。

1：[V/P/M]キーを押してVFOモードにする。

2：[SCAN]キーを押し続ける。指は離さない。
押している間、「VFO」が表示されます。もし離したらスキャンが始まるので[SCAN]キーを押して、スキャンを止めてやり直します。

3：ダイヤルを回すと「PRGRM、数字」が複数表示されるので、上側の小さい数字を「4　150．090」に合わせる。
小さい数字は周波数データリストのプログラムスキャンの登録番号で、4番はVHF帯の業務無線割り当て周波数150.090から154.370MHzの間だけを繰り返しスキャンします。

【参考】プログラムスキャンを「サーチ」と呼ぶこともあります。

4：指を離す。
スキャンが始まります。スキャン中の操作はメモリースキャンと同じです。「ザー」のような音で止まるときはノイズや受信できない信号です。いつも同じところで止まるなら後述のオートサーチパス操作をすればスキップできます。メモリーモードのスキップとは操作が違います。

5：「153.450」でスキャンが止まり、音声が聞こえた。
すぐに [SCAN] キーを押してスキャンを止めると VFOモードで待ち受けできます。インターネットや書籍で調べると、各地の空港事務所で業務連絡に使われている周波数の様です。これをメモリーチャンネルに登録する方法は後述します。

6：別のPS番号をスキャンする、VFOスキャンに戻る。
このまま[SCAN]キーを押すと、また4番でPSを再開します。5番の船舶を受信したければスキャンを止めてから3～4の操作を繰り返して「PRGRM　5　156.025」表示を選んで指を離します。同じ操作で「 VFO 」を選ぶと初期値のVFOスキャンに戻ります。
「PRGALL」は全てのPSペアを順番にスキャンします。

【参考】メモリーモードのSINGLEスキャンとALLスキャン。
メモリーモードで[SCAN]キーを押したまま同じ操作をすると、「SINGLE」と「ALL」が選べます。初期値は「SINGLE」で、選んだ1つのバンクのみ、「ALL」は全てのバンクを順にスキャンします。特定のバンクをリンクさせてスキャンするバンクリンクの操作は取扱説明書をご覧ください。

【覚えてください】
- **プログラムスキャン(PS)：**上限と下限の周波数を決めて、その間をPSメモリーチャンネルペアのA側に設定した電波型式とモードでスキャン。
- **PRGRM：**プログラムスキャン時の選択画面表示。。
VFOモードで[SCAN]キーを押しながらダイヤルを回す。

見つけた周波数をメモリーチャンネルに登録する

重要　メモリーには電波型式や空線信号機能などの情報も登録できます。登録操作する前に電波型式やその他メモリーしたい/したくない情報に注意してください。例えば400MHz帯の軍用エアバンド周波数を選ぶとAUTOモードでは電波型式がAMではなくFMに設定されます。あらかじめ変えておかないと、登録をやり直すしかありません。メモリーチャンネルに登録できる情報は取扱説明書をお読みください。

■バンク8番の0chに153.450MHz FMを登録する。
バンク8番は自由に使える10ch分の空きバンクです。後述の消し方の操作に使うので、153.450を000チャンネルに登録します。

1：VFOモードで153.450 FMに合わせる。
ダイヤルや[数字]キーで入力します。 AUTO設定なら自動でFMになります。

2：[FUNC]キーを押す。
メモリーモード同様の表示が出ます。

3：リングでバンク08、ダイヤルで「000」を選び「------」のような表示を出す。

4：[V/P/M]キーを押す。
「ピ」と鳴ってVFOモードに戻れば終了です。 [V/P/M]キーの上の印字MWはメモリーライト(メモリー書き込み)と覚えてください。
[V/P/M]キーを押してメモリーモードで呼び出せます。このままでは周波数表示なので適当なネームを付けて、周波数データリストのバンク8の0ch欄に「伊丹空港事務連絡」、のようにメモしておきます。

【参考】3の操作で数字バンク以外、たとえばPSバンクやPAバンクを選ぶとプログラムスキャンやサーチパスメモリーが登録できます。

【覚えてください】
- **電波型式：**モードとも呼ばれる。DJ-X82はアナログ通信の代表的な電波型式、FM（周波数変調）とAM（振幅変調）の2つのモードが受信可能。ラジオ放送も同じ型式なのでFM放送、AM放送と呼ばれる。

オートメモリーとオートサーチパス

DJ-X82の便利な機能の一つです。見つけた信号やノイズをそれぞれ200chまで、1または2タッチするだけで自動で専用メモリーバンクに記録します。リセットしても消えません。スキャン中でも同じ操作で登録できます。オートメモリーは重複した周波数も登録しますが、オートサーチパスは重複登録しようとすると「DUPERR」と表示して登録しません。

■ オートメモリー

1：メモリーしたい周波数を選ぶ。
スキャン中に停止した周波数、または周波数を[数字]キーやダイヤルで入力します。

2：[FUNC]キーを押す。
Fアイコンが表示されます。スキャン中であればその周波数で止まります。

3：ダイヤルを長押しする。
「ピ」と鳴って「AT--000」のような表示が出て完了です。運用画面やスキャン状態に戻ります。「000」はメモリCHで小さい順に自動で割り当てます。

4：メモリーモード操作でAtバンクを選ぶ。
[V/P/M]キーでメモリーモードを選択、[ENT]キーを押したままダイヤルを回して「At」に合わせます。通常のバンクと同じ操作で登録した周波数を呼び出すことができます。

■ オートサーチパス

1：スキャンが止まる放送やノイズの周波数に合わせる。
スキャン中に見つけた時でも同じ操作ができます。

2：ダイヤルを長押しする。
「ピ」と鳴って「P2--001」のような表示が出て完了です。待ち受けやスキャン状態に戻ります。

3：メモリーモード操作でP2バンクを選ぶ。
[V/P/M]キーでメモリーモードを選択、[ENT]キーを押したままダイヤルを回してP2バンクに合わせます。
ここに登録された周波数はVFOやPSのスキャン時にスキップされます。メモリーチャンネルのスキップとは違います。

【参考】アンテナを外してVFOスキャンしたときに受信できるノイズは無線機が自分で作り出してしまうノイズで消せません。これはオートではないサーチパスバンクに登録しておくほうが便利です。

ラジオ放送を聞く(FMラジオモード)

本機のFMラジオ受信は通信の受信とは別の回路になっており、音量レベルにも差があります。「受信機とは別のFMラジオになる」とお考えください。

1：[FUNC]キーを押した後、[7](RADIO)キーを押す。
「rAdio」が表示され、FMラジオモードになります。

2：ダイヤルを回すか[数字]キーで近くのFM局の周波数を合わせる。
例：[8][8][.][1][ENT] ＝「rAdio WFM 88.100」が表示されます。
＊FMラジオモードで [V/P/M] キーを押すごとにメモリーモードとFMラジオモードが切り替わります。
＊FMラジオモード中は[数字]キーの機能操作が一部制限されます。
※例：[3](MODE)

3：もう一度[FUNC]キーを押した後、[7](RADIO)キーを押す。
VFOモードになり、FMラジオモードを終了します。

メモリーチャンネルの編集と削除

■受信できたチャンネルに名前を付ける。（メモリーネーム）
伊丹タワー118.100MHzの表示をCNTROLからITMTWRに変えます。

【参考】専用編集ソフトを使うとキーボード入力で簡単にできます。
アルファベット、記号、数字を合わせて6文字まで表示できます。

1：メモリーモードで「01 003 118.100 CNTROL」に合わせる。
[ENT]キーを押したままダイヤルを回して01、[ENT]キーを離した状態でダイヤルを回して003に合わせる。

2：[FUNC]キーを押した後、[.](NAME)キーを押す。
ディスプレイ右上に周波数、下に「CNTROL」が表示され「C」が点滅します。

3：ダイヤルを回して「 I 」を選ぶ。
取扱説明書の「メモリーネーム機能」に選べる文字のリストがあります。

4：リングを右に回して「 N 」を点滅させる。
「 I 」が入力され、「 N 」が点滅するのでダイヤルを回して「 T 」を選びます。

5：3と4を繰り返し残りの文字を入力する。
[V/P/M]キーを押すと、全ての表示を消して初めからやり直すことができます。

6：最後の「 R 」を点滅させたら[FUNC]キーを押す。
「ピ」と操作音が鳴り、「ITMTWR」表示でメモリーモードになります。

【覚えてください】
- **メモリーネーム**：[FUNC]キーを押した後、[.](NAME)キーを押す。ダイヤルで文字を選びリングで左右移動。やり直しは [V/P/M]キー。終わったら[FUNC]キーを押す。

■ 選んだメモリーチャンネルを消す。

重要　全てのバンクに共通の操作です。前項のオートメモリーバンクを整理するのに便利なのでここで説明しますが、同様に普通のエアバンドや鉄道のバンクも消すことができます。消えると手動では復旧できなくなるのでご注意ください。
※ 盗聴器発見のbGバンクだけはプログラムされているので消せません。

1：[V/P/M]キーでメモリーモードにする。

2：メモリーチャンネル受信と同じ操作で消去したいチャンネルを選ぶ。
ここではAtバンクの000を選びましょう。

3：「AT 000」と周波数が表示されたら [FUNC] キーを押した後、[V/P/M]キーを押す。
「ピ」と鳴ってチャンネルが1つ消えます。

■バンクごとデータを消去する。
バンク8を消去する場合は以下の手順で行います。

1：メモリーモードで[ENT]キーとダイヤルを操作して、消したいバンクを選ぶ。
ここでは登録されている「08 000 153.450」を選びます。

2：[FUNC]キーを押した後、[V/P/M]キーを長押しすると、「ERASE BANK?」が表示される。
消去を止めるときは[FUNC]キーを押します。

3：もう一度[V/P/M]キーを長押しする。
「ピ」と鳴ってバンクが消えます。

【参考】何もチャンネルが登録されていない空きバンクは書き込み操作をしないと出てきません。メモリーチャンネルを含む全てを初期化する方法がありますが、上級者向けの操作なので取扱説明書をお読みください。

メモリーチャンネルの保護

大切なメモリーチャンネルを上書きや消去から保護できます。初期値はOFFで、保護はされていません。本書を読み、受信できる信号を見つけてネーム編集するなどカスタマイズができたらONにしておくことをお勧めします。

1：[FUNC]キーを押した後、ダイヤルを押し下げる。
「(DISP)」が表示されます。

2：リングを回して「(MR)」を選び、ダイヤルを押し下げる。
「ProtCt　OFF」が表示されます。初期値は保護しない「OFF」です。

3：リングを回して「ON」を選び[FUNC]キーを押す。
登録されたメモリーチャンネルはネーム編集も含めて一切変更、上書き、削除ができなくなります。メモリーリセットも禁止されます。
＊空きバンク/チャンネルへの新規登録は可能です。
＊この設定に関係なくPCソフト編集はできます。

取扱説明書

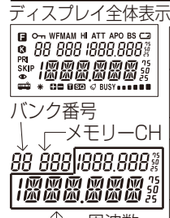
本機のすべての機能を詳細に網羅した取扱説明書も必ずお読みください。プリントした説明書は存在しません。コピーの販売は行っておりません。

「アルインコ　DJ−X82　取扱説明書」で検索

ディスプレイ

使っていない機能は表示されません。

ディスプレイ全体表示



左側	
F	[FUNC]キー押すと点灯
PRI	プライオリティスキャン
SKIP	スキップ/お気に入り
👁	簡易盗聴器発見機能(周波数データリスト巻末参照)
🚌	空線キャンセル機能

上側	
🔑	キーロック(誤操作防止)
WFMAM	電波形式AM/FM
ATT	アッテネーター
BS	バッテリーセーブ
🔋	充電 / 電池交換が必要

下側	
＊	お気に入り選択メモリーチャンネル
⊞	シフト機能
🔔	ベル機能
BUSY	受信信号の強さ

定格（抜粋）

周波数範囲 (単位：MHz)	108.000～253.800 / 255.000～262.000 266.000～271.000 / 275.000～380.200 381.325～412.000 / 414.400～470.000 FMラジオ放送76.000～107.900
電波の型式	AM/FM(FM放送はWFM)
アンテナインピーダンス	50Ω不平衡 SMA端子
電源電圧	外部端子/USB 5V　　電池端子/ 2.4V ～ 3.0V
消費電流	受信定格出力時:約150mA / 待受け時:約90mA バッテリーセーブ時:約47mA
周波数安定度	±1.5ppm(使用温度範囲:−10℃～ +60℃)
外形寸法　W×H×D	58×96×31mm（突起物除く）
質量	約200g（EBP-179、アンテナ含む）
受信方式	FM/AM：トリプルスーパーヘテロダイン WFM：ダイレクトコンバージョン
低周波出力	最大100mW以上（8Ω時）

アフターサービスについて

保証書には必ず所定事項(ご購入店名、ご購入日)の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。添印や購入証明などが無いときは、レシート、送り状、通販の購入明細書など、品名と購入日が確認できる書類を合わせて保存してください。これが無いと、保証サービスは受けられず、理由を問わず点検は有償となります。保証期間は、お使いになっていなくてもお買い上げの日より1年間です。正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または弊社サービス窓口にご相談ください。保証書記載の内容で点検いたします。保証期間が切れたり、落雷・落下など使用者責任の故障は有料になります。

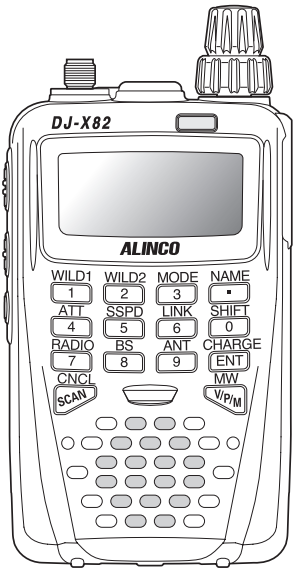
修理品の送り先： アルインコ電子サービスセンター
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビ ル13F
お問い合わせはフリーダイヤル　0120−464−007
土日祝日休業日除く10～12時/13～17時

ALINCO

COMMUNICATIONS RECEIVER

DJ-X82

取扱説明書



アルインコの DJ-X82 をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させるために、まずこの取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。
アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管してください。

This product does not comply with FCC, CE and other foreign Standards, and is intended for use only in Japan.

Alinco declines any responsibilities and technical supports in case this product is used abroad.

アルインコ株式会社

付属品の確認

DJ-X82には次の付属品が同梱されています。

- ☐ クイックガイド
- ☐ 周波数データリスト
- ☐ ニッケル水素バッテリー EBP-179（1.2V-1900mA）×2
- ☐ ホイップアンテナEA-154（SMAコネクター）
- ☐ ベルトクリップ（装着済）EBC-28　ビス1本付
- ☐ USBケーブルEDS-39
- ☐ 保証書

不足があればすぐに購入元にご相談ください。

もくじ

1. 機能と特徴 …… 6

2. 安全上のご注意 …… 7
- 2-1 安全上のご注意 …… 7
- 2-2 ご使用前のご注意 …… 13

3. 付属品の使いかた …… 17
- 3-1 アンテナの取り付けかた／取り外しかた …… 17
- 3-2 電池の入れかた・ご注意 …… 17
- 3-3 ベルトクリップの取り付け、取り外しかた …… 19
- 3-4 USBケーブルの使いかた …… 19
- 3-5 別売充電スタンドの使いかた・ご注意 …… 20
  - 3-5-1 充電スタンドの接続 …… 20
  - 3-5-2 充電の方法 …… 20

4. 各部の名称と操作 …… 22
- 4-1 本体の名称と動作 …… 22
  - 4-1-1 上面部、前面部 …… 22
  - 4-1-2 側面部 …… 23
  - 4-1-3 キー操作 …… 23
- 4-2 ディスプレイの表示 …… 25

5. 基本操作 …… 26
- 5-1 電源を入れる、切る …… 26
- 5-2 音量を調整する …… 26
- 5-3 スケルチを調整する …… 27
  - 5-3-1 操作方法 …… 27
- 5-4 モニター /ミュート機能 …… 28

6. 運用モード …… 29
- 6-1 VFOモードでの受信 …… 30
- 6-2 メモリーモードでの受信 …… 33
  - 6-2-1 メモリーの種類と使いかた …… 34
  - 6-2-2 メモリーチャンネルの登録 …… 35
  - 6-2-3 メモリーチャンネルとバンクの消去 …… 37
  - 6-2-4 メモリーチャンネルの別バンクへの移動 …… 38
  - 6-2-5 メモリーチャンネルをVFOモードにコピーする …… 39
  - 6-2-6 メモリースキップとお気に入り選択機能 …… 39
  - 6-2-7 メモリーネーム機能 …… 40
- 6-3 国際VHF(マリン無線) …… 42
- 6-4 受信について …… 43

7. キーボードに割り当てられた機能 …… 44
- 7-1 ワイルドキー機能(ショートカット) …… 44
- 7-2 受信モード切り替え機能 …… 44
- 7-3 アッテネーター(ATT)機能 …… 45

7-4 スキャンスピード切り替え機能 …… 46
7-5 FMラジオ …… 46
7-6 バッテリーセーブ機能 …… 47
7-7 イヤホンアンテナ …… 47
7-8 周波数シフト機能 …… 48
7-8-1 設定のしかた …… 48
7-9 充電機能設定 …… 50
7-10 空線信号キャンセラー機能 …… 50
7-11 プライオリティ機能 …… 51

8. 便利な機能 …… 53
8-1 キーロック機能 …… 53
8-1-1 キーロックの方法 …… 53
8-1-2 キーロック時にできる操作 …… 53
8-2 スキャン機能 …… 53
8-2-1 VFOスキャン …… 54
8-2-2 メモリースキャン …… 54
8-2-3 プログラムスキャン（サーチ） …… 55
8-3 メモリースキャンとプログラムスキャンのリンク設定・確認機能 …… 56
8-4 盗聴器発見機能 …… 59
8-4-1 SILENTモードでの探知 …… 60
8-4-2 SOUNDモードでの探知 …… 60

9. セットモード …… 62
9-1 表示設定 …… 63
9-1-1 LAMP動作の選択 …… 63
9-1-2 コントラスト設定 …… 63
9-2 電源設定 …… 64
9-2-1 電池の種類設定 …… 64
9-2-2 減電池警告音設定 …… 64
9-2-3 APO機能 …… 65
9-3 国際VHF(マリン無線)の設定 …… 65
9-3-1 呼び出しチャンネル（CH16）自動引き戻し機能 …… 66
9-4 スキャン設定 …… 66
9-4-1 スキャン停止時間設定 …… 67
9-4-2 スキャンタイプ切り替え …… 67
9-4-3 プライオリティ待ち受け時間設定 …… 68
9-4-4 プライオリティ停止時間設定 …… 68
9-4-5 スキップスキャンの動作 …… 69
9-5 キー操作設定 …… 69
9-5-1 MONIキー動作の設定 …… 70
9-5-2 モニター／ミュート機能の設定 …… 70
9-5-3 ワイルドキー（1・2）への機能割り当て …… 71
9-5-4 ダイヤルターボ機能 …… 71
9-5-5 キーロック中のダイヤル操作 …… 71
9-6 メモリー設定 …… 72
9-6-1 メモリー保護機能 …… 72
9-7 音操作 …… 72
9-7-1 ビープ音機能の解除 …… 73
9-7-2 ベル機能 …… 73

9-7-3 イヤホン断線検知機能 …… 73
9-8 盗聴器発見機能設定 …… 74
9-8-1 盗聴器発見機能の感度設定 …… 74
9-8-2 盗聴器発見機能モードの切り替え …… 75
10. チャンネル表示モード …… 76
11. クローン／ PC接続機能 …… 77
11-1 クローン時の接続方法 …… 77
11-2 データを受け取る側の操作 …… 78
11-3 データを送る側の操作 …… 79
12. リセット機能 …… 80
12-1 リセットとメモリーデータについて …… 80
13. 保守・参考 …… 81
13-1 故障とお考えになる前に …… 81
13-2 オプション一覧 …… 82
13-3 アフターサービスについて …… 82
14. 索引 …… 84
15. 定格 …… 86

1. 機能と特徴

DJ-X82はVHF ／ UHF帯の電波メディアを受信する多機能レシーバーです。

1 広範囲の周波数に対応し、航空無線や業務通信などを受信できます(一部周波数を除く)。

2 充電、PC編集ソフト接続がUSB TYPE-Cケーブルで可能になりました。

3 イヤホンのコードをアンテナとして、FMラジオのような強い電波を受信できます。

4 周波数入力や機能の操作が素早く行えるテンキー(数字キー)を採用しています。

5 本体同士で設定や各種データをコピーできるクローン機能を搭載。またパソコンと接続して設定やデータを編集することもできます。

6 空線信号キャンセラー機能で鉄道無線で使用されている通話の無い時に聞こえる「ピー」や「ギャラギャラ」という音にスケルチをかけることができます。

7 強い信号を探すときには速く、弱い信号を探すときにはゆっくり確実に、スキャンスピードを変更でき、5段階から選べます。

8 よく使うセットモードの機能にジャンプできるワイルドキーを2つ採用しました。

9 盗聴器発見機能を2モード搭載。盗聴器が使われていそうな場合、表示と警告音で知らせてくれます。

2. 安全上のご注意

2-1 安全上のご注意

絵表示について

本製品を正しく安全にお使いいただき、使用者や周囲の人々への危害や財産へ損害を未然に防止するため、下記の表示をしています。

表　示	表示の意味
⚠ 危 険	これを無視して誤った使用をすると、「使用者および周囲の人々が、死亡または重傷を負う危険が差し迫っていることが想定される内容」を示しています。
⚠ 警 告	これを無視して誤った使用をすると、「使用者および周囲の人々が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠ 注 意	これを無視して誤った使用をすると、「使用者および周囲の人々が、傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

免責事項について

下記について、法令上の賠償責任が認められた場合を除き、弊社は一切責を負いません。

- 天災、人災、弊社の責任以外の火災、製品使用者の違法、故意、過失、取扱説明書の記載を守らない事を含む誤用、その他異常な条件下での使用により生じた事故と損害
- 本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因にて生じる付随的な損害、不利益（受信できなかったことで生じた損失や事業の中断など）
- 本製品の保証点検・修理を受ける際に発生する取り外し、取り付け費用
- 弊社が関与していない接続機器やソフトウエアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害
- 故障や修理のために喪失した個別の設定内容やチャンネルのデータ、表面に施された装飾やカスタマイズ用に使われた部品（ラベル類、圧着端子、ブラケット、ゴム足等）

■ 共通（受信機本体 / バッテリー / 別売充電器と AC アダプター）

⚠危険

◎引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。本製品は防爆仕様ではありません。

◎次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

●指定以外の AC アダプターを接続しないでください。

●指定以外のバッテリーを充電しないでください。

●指定以外の充電器を使用しないでください。

◎直射日光があたる場所、空調機や火のそばなど、温度が高くなる場所には絶対に置かないでください。

破裂、火災、故障の原因になります。真冬でも車内や窓際は日光があたると製品の表面はバッテリーの異常につながる温度まで上昇します。エアコン暖房程度の温風でも連続して当たっていると高温になります。

⚠警告

◎分解、改造をしないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

◎発煙、異臭、異音、しみなどの異常がある場合は、使用しないでください。

継続して使用すると火災、感電、故障の原因になります。すぐに電源を切り、バッテリーを取り出し、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜き、煙が出なくなったことを確認してから、お買い上げの販売店、または、弊社サービスセンターにご連絡ください。

◎小さいお子様の手が届かない場所で使用、保管してください。

感電やけがの原因になります。

◎電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたりしないでください。

電源コードが破損し、火災、感電、やけど、けがの原因になります。

⚠注意

◎**ぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所、振動の多い場所には置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

■ 受信機本体

⚠警告

◎**本製品を振り回したり、投げたりしないでください。**
本体や部品が外れて人や壁などに当たり、けがや故障、破損の原因になります。

◎**航空機内など家電製品の使用が制限される場所では、許可なく使用しないでください。**
安全に支障をきたす原因になります。使用する場所の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

⚠注意

◎**付属品および、弊社指定のオプション品以外は使用しないでください。**
故障や感電など事故の原因になります。

◎**指定以外の温度範囲で使用しないでください。**
記載の温度範囲以外でのご使用は故障、動作不良、発熱発火の原因となることがあります。

◎**大きな音量でイヤホンやヘッドホンなどを使用しないでください。**
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

◆ 別売充電器・充電スタンド

⚠警告

◎次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

●充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。また、水にぬれたときは使用しないでください。

●ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。

●充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。

●湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。

⚠注意

◎次の事項を守らないと、液漏れ、故障、動作不良の原因になります。

● 10℃～ 40℃以外の環境で充電しないでください。

●充電後や充電しないときは、AC アダプターを抜いてください。

●指定以外の電圧で使用しないでください。

◆別売 AC アダプター・USB アダプター

⚠警告

◎濡れた手では絶対にアダプターに触れないでください。

感電の原因になります。

◎アダプターや接続ケーブルに傷がある場合や、AC コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。

火災、感電、故障、破損の原因となります。

◎次の事項を守らないと、火災、感電、故障の原因となります。

●埃がたまる場所にあるコンセントに接続しないでください。
（トラッキングと呼ばれる現象で発火することがあり、大変危険です。）

●アダプターを抜き差しするときは、電源コードや USB ケーブル（以下ケーブル）を引っ張らないでください。

●ケーブルの上に重いものを載せないでください。

●ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

●水などで濡れやすい場所では使用しないでください。
●アダプターをタコ足配線して使用しないでください。
●湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所では使用しないでください。

◆ バッテリー

⚠危険

◎火や空調機のそば、直射日光の当たる車内や窓際など、高温になる場所での使用、充電、放置は絶対にしないでください。
バッテリーの性能や寿命が低下、発熱、液漏れ、やけどの原因になります。真冬でも温風や直射日光が当たると危険な温度まで上昇します。

◎次の項目を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液漏れ、感電、やけどの原因になります。
●火中に投入したり、加熱したりしないでください。
●液体につけたり、濡らしたりしないでください。
●バッテリーの端子に半田付けをしないでください。
●バッテリーの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
●金属類 (針金、ネックレス、鍵など）や導電性のあるものをバッテリーの上に放置したり、バッテリーと一緒に持ち運んだりしないでください。
●バッテリーからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。失明の恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠警告

◎使用中や充電中にいつもより発熱すると感じたときは、使用を中止してください。
使用を続けると、液漏れ、故障の原因となります。地域のルールに従って廃棄してください。

⚠注意

◎次の注意事項を守らないと、発熱、液漏れ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

●バッテリーを完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーを保管する場合は、バッテリーを完全に使い切ってから、満充電してください。

●受信機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

●保管するときは必ずバッテリーを受信機から外してください。装着したままだと過放電して充電できなくなります。

バッテリーの特性と寿命について

◎バッテリーは消耗品です。充電回数は 300 回～ 500 回が目安です。
充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーに異常があると思われたときは、使用を中止してください。

◎使用せずに保管している状態でも、劣化が進行します。
劣化がはじまると、運用時間が短くなります。

◎劣化したバッテリーは発熱の原因となることがありますので、使用しないでください。弊社では 3 年を目安に、長くても 5 年でお買い換えをお勧めしています。

電磁ノイズについて

次のようなインバータ回路を内蔵している電子機器および、ハイブリッドカー、電気自動車の車内や周辺では電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

インバータ回路内蔵の主な電子機器

● LED 照明機器　●電磁調理器　●給湯器
●自動車の電子機器　●太陽光発電装置など

2-2 ご使用前のご注意

電波法上のご注意 - 必ずお読みください。

◎この製品を日本国内で使用するのに特別な資格や許可、免許は必要ありませんが、電波法第 59 条は「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対しておこなわれる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」とし、第 109 条で「無線局の取扱中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1 年以下の懲役又は 50 万円以下の罰金に処する。」と罰則規定を設けています。さらに第 109 条の 2 で「暗号（秘話）通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし又は窃用する目的で、その内容を復元（秘話解除）した時は、1 年以下の懲役又は 50 万円以下の罰金に処する。」と定めています。この受信機が受信できる音声や文字、画像などのデータ信号は、放送以外は全てこの無線通信にあたります。その存在や通信内容を通信者の許可なく第三者に伝えたり、自分で利用したり、メディア（雑誌、SNS 等）で公開したり、これらの目的のために暗号を解読したりすると罰せられます。

◎国や地域によっては公安上の理由から受信機の持ち込みや使用が厳しく制限されており、違反すると罰せられます。海外旅行には原則的に受信機をお持ちにならないことをお勧めします。通信の受信が認められている国や地域でも、日本の電波法第 59 条に類似する通信やプライバシーの守秘や秘話解読の禁止が法律で定められています。

◎ FCC、CE、その他の海外での使用に求められる規格認証を取得していない日本国内向けの製品です。海外での使用に対して弊社は一切の責任を負わず、アフターサービスのご提供も致しかねます。

This product does not comply with FCC, CE and other foreign Standards, and is intended for use only in Japan. Alinco declines any responsibilities and technical supports in case this product is used abroad. Many countries strictly prohibit imports and use of communications receivers without permission.

取扱上のお願い - 必ずお読みください。

本製品をご使用になるうえで、特に注意していただきたい事項を記載しています。必ずお読みください。正しく使わないと製品保証の対象外になったり、トラブルや故障の原因になったりすることがあります。

◎受信機を娯楽施設・宿泊施設・遊技場の近く等で使用していると盗聴の誤解を受けたり、トラブルになったりする恐れがあります。テーマパーク、遊技場、コンサートホール等で、場内に受信機の持ち込みが禁止されているところがあります。注意を受けたら速やかに従ってください。

◎防水､防塵ではありません。水分や粉塵が無線機内部に入って故障した場合、保証の対象にはなりません。意識していなくても内部に入りがちですので特にご注意ください。

◎理由の如何と製品保証期間に関わらず、弊社技術員以外が本製品を分解、再組み立てしたときは製品保証の対象外となります。

◎付属品、および弊社指定のオプション品以外のアクセサリーを接続して使用すると故障や動作不良の原因になることがあります。他社製品をお使いになっての不具合は保証期間に関わらず、製品保証の対象外です。他社製品を本製品に使うための改造サービスは有償、無償にかかわらず行っておりません。

◎屋外で使用するときは必ずイヤホンやヘッドセットをお使いください。大きな音が迷惑になるばかりでなく、使用者と関係が無い通信を第三者に聞かせると守秘義務違反で罰せられる可能性があります。

◎この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用しないでください。
事前の個別契約が無い限り、誤動作、不具合や損害が生じても一切の責任は負いかねます。

◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）を絶対に使用しないでください。ケースが損傷したり、文字が変質したり、塗装がはがれたりします。また機器内部に洗剤などが浸透すると故障の原因になります。

◎本体と別売充電スタンドの接触端子はときどき乾いた綿棒で軽く拭って清掃してください。ほこりや汚れは充電不良の原因になります。

◎清掃には市販のデジタル家電用のクリーニング器具が最適です。防水ではないので湿ったクリーナーの使用は余分な水分を絞ってから使い、すぐ乾拭きするなど、十分ご注意ください。

◎機種名、数字や記号が書かれたラベル類は一切、絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。盗品や違法改造品とみなされる場合があり、弊社の製品保証対象から外れるため、弊社のアフターサービスも受けられなくなります。

◎寒い屋外から急に暖かい室内に移動した時や、湿度が非常に高い場所で使うと内部に水滴が付くことがあります（結露）。濡れた状態で電源を入れると故障の原因となるのでご注意ください。

◎廃棄するときは自治体の指定する方法で家電ごみとして処分してください。

◎電池類は高温や低温環境では一時的に使用できる時間が短くなり、長時間その状態が続くと電池の劣化が進みます。ケースに入れるなどして、常温に近づけてお使いください。

◎乾電池は推奨使用期限内にお使いください。古い電池は性能の低下、内部素材の劣化による液漏れの原因になります。使用期限は「月－２桁」または「月－西暦年号」の順で、本体またはパッケージに表示されています。例：01－23、01－2023 は 2023 年 1 月を表します。

◎別売の乾電池をお使いになるときは、信頼できる品質のアルカリ乾電池をお使いください。マンガン乾電池は運用時間が短くなり、動作不良の原因になります。リチウム乾電池も使用できますが弊社ではアルカリ乾電池で動作検証しています。

◎アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。

◎アンテナを持って本製品を持ち運んだり、折り曲げたり、ねじったりすると故障します。

◎お手入れの際は安全のため必ず本体の電源を切って、電池をとりはずし、アダプター類は AC コンセントから抜いてください。

◎広帯域受信機は本体の内部発振 (スプリアス) によって受信できない、あるいは雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。

◎メモリーチャンネルへのデータ書き込みや周波数データリストが付属している場合、それら周波数はあくまでも参考のもので、更新もしておりません。市販の周波数帳や受信ガイド、インターネット上にある情報などを参考にしてください。

◎使わないときでも、時々通気の良いところに置いて通電してください。長く放置しているとバッテリーの劣化のほか、機構部品のゴムや樹脂も加水分解で劣化してもろくなったり白化したりします。

◎ズボンのポケットに入れて使用すると、座ったときに無理な力が加わり故障の原因になります。

◎テレビ、ラジオ、LED ライト、ソーラーパネル、パソコン、カーナビなどの電気・電子、車載機器の近くで使うとノイズなどの電波障害を受けることがあります。

【運転中の使用について】

◎運転中に受信機を手に持って操作しないでください。このような行為は運転中の携帯電話使用と同様に罰せられます。受信機の使用は必ず安全な場所に停車してから行ってください。

◎外部に音が聞こえないような状態にして運転しないでください。外部アンプや、大型スピーカーをつないで周りの音が聞こえないような大音量で受信したり、耳を完全に覆うタイプのヘッドホンを使ったりすると罰せられることがあります。ほとんどの地方自治体では運転中にイヤホン・ヘッドホン類を使用すること自体を規制しています。

◎受信機をベルトクリップなどで体に装着して運転しないでください。アンテナや付属品が引っ掛かり、運転の支障となることがあります。そちらに注意を引かれると前方不注意の原因となります。

【充電についてのご注意】

◎充電しているとき、電源ラインから入るノイズで S メーターが振れたり、雑音が聞こえたりすることがあります。

◎パソコンの USB 端子を使用して充電するときは本製品の電源を切ってください。電源が入ったままだと正しく充電できません。

◎モバイルバッテリーは電池容量によって充電時間や使用時間が変わります。

【雷について】

屋外で受信機を持っていると雷撃の危険があります。雷が聞こえるような場所では受信機を持たず、屋内など安全な場所に避難してください。電線を伝わった落雷が受信機やアクセサリーを故障させることがあるので USB や AC アダプターを使用中に雷が聞こえたらコンセントから抜いて、外部アンテナを使用中は受信機から外してください。

【登録商標 / 著作権 / 特許】

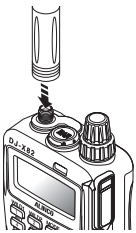
アルインコ株式会社、アルインコ、Alinco Inc.、アルインコロゴは、アルインコ株式会社の登録商標です。Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。なお、本文中では、TM、® などのマークを省略しています。

3. 付属品の使いかた

3-1 アンテナの取り付けかた／取り外しかた

1 **アンテナの根元を持ち時計方向(右)にゆっくりと回します。**
回転が止まったら確実に取り付けたことを確認してください。

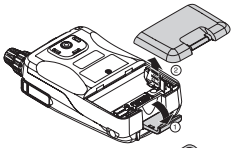
2 **外す時はアンテナを反時計方向(左)にゆっくりと回します。**



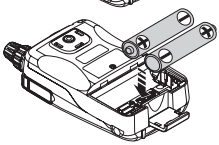
参考
- アンテナコネクターは規格品のSMAタイプです。日本メーカー製の受信用アンテナに適合しますが、もし他社製品が相性問題などで勘合しなくても責はご容赦ください。
- 本機のアンテナは折れにくくするため通常のものより柔軟な素材でできているので、たわんで見えます。
- 外部アンテナの接続にも、このコネクターを使います。

3-2 電池の入れかた・ご注意

1 **ロックを外してカバーを開けます。**
外したカバーをなくさないよう注意してください。



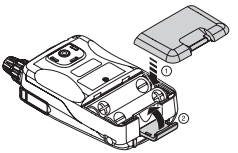
2 **ケース内の＋・－の表示にしたがって、付属バッテリー（EBP-179）2本を入れます。**
単三形アルカリ乾電池でもお使いになれます。



注意
- ＋・－の向きを間違わないよう注意してください。本体の故障・発熱・液漏れの原因になります。
- バッテリーも乾電池も使わないときは必ず抜いて保管してください。液漏れ、待機電流による放電などを防ぐためです。

3 カバーを閉めてロックをかけます。

きちんと閉まったことを確認してください。



本機は付属のニッケル水素バッテリーの他に、単三形アルカリ乾電池またはリチウム乾電池でもご使用いただけます。

●電池残量について

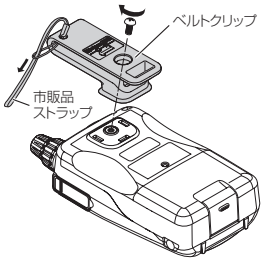
電池の残量が少なくなるとディスプレイに が点灯し、さらに少なくなると に変わります。
付属のニッケル水素バッテリーをご使用のときは充電をしてください。
乾電池をご使用のときは新しい電池と交換してください。
十分に電池残量があるときはバッテリーマークは表示されません。

●ニッケル水素バッテリーや乾電池（以下バッテリー）の注意点

- 付属のバッテリーは、お買い上げ後に充電してからお使いください。
- 構造上、市販品のバッテリーは本機では充電できません。
- 充電は0℃～ 40℃の温度範囲内で行ってください。
- バッテリーの改造や分解、火中や水中への投入は危険ですから絶対にしないでください。
- バッテリーの端子は絶対にショートさせないでください。機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
- 必要以上に長時間の充電(過充電)は避けてください。液もれや、バッテリーの性能を低下させる恐れがあります。
- 電源スイッチを切っていても、待機電流によりバッテリーは消費されます。非常時の備蓄用等、やむを得ずバッテリーを入れた状態で長期保管される場合は必ず十日に一度程度は通電して、バッテリーが放電していないか確認してください。電気製品にバッテリーを装着したままでの保存は劣化、液漏れなどの原因になります。バッテリー本体とバッテリーに関連して起こった本体側の不具合は保証の対象外となります。
- バッテリーの保存は、-10℃～ +45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い場所では、バッテリーの液漏れや、サビの原因になりますので避けてください。
- バッテリーは正しく使っていても劣化します。3年をめどにお買い換えください。
- 使用済みのバッテリーは地域のルールに従って廃棄してください。
- バッテリーはその性質上、充電せず放置すると劣化して充電できなくなることがあります。長期間ご使用にならないときは満充電にして、バッテリーを本体から取り外して保存し、最低でも6 ヶ月に一度は満充電にしてください。
- バッテリーは消耗品ですので製品保証の対象ではありません。
- バッテリーやアルカリ乾電池を持ち運ぶときは、ビニール袋で包むなど端子がショートしないよう十分に気を付けてください。

3-3 ベルトクリップの取り付け、取り外しかた

※ベルトクリップは取り付けた状態で梱包されています。



1 **ベルトクリップを本体後面の溝に合わせます。**

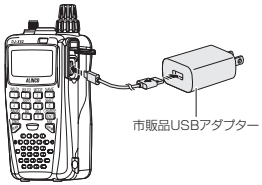
2 **ネジを時計方向(右)に回します。**

付属品以外のネジを使うと本体が破損する可能性があります。絶対に規定以外のネジをお使いにならないでください。
回転が止まったら確実に取り付けたことを確認してください。

3 **外す時はネジを反時計方向(左)に回します。**

ベルトクリップで体の横、または背中に固定して、イヤホンは引っかからないようになるべく背中を通して余分な長さを束ねてください。かがんだ時にプラグやアンテナに負荷がかからないようご注意ください。
※使用しているとネジが緩むことがあります。ときどき点検してください。
※市販品のストラップもクリップの穴に通してお使いになれます。

3-4 USBケーブルの使いかた



1 **電池を取り付けます。**

2 **本機のUSBポートのキャップをあけます。**

3 **USBケーブルのType-C 側を本機に接続します。**

4 **USBケーブルのType-A 側を別売のUSB アダプターに接続します。**

※市販のUSBアダプター全般で充電できますが、受信時のノイズの出方にはアダプターによってばらつきがあります。

5 USBアダプターをAC100Vのコンセントに差し込みます。

※充電中は熱を持つことがありますが、異常ではありません。

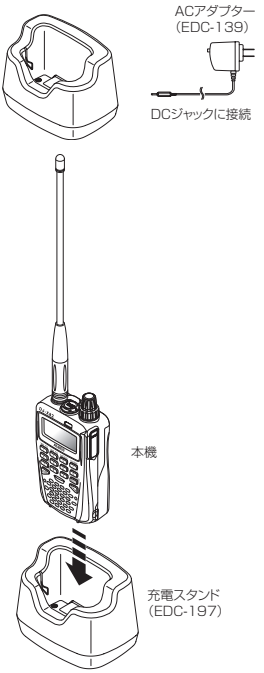
※USB ポートのゴムキャップは毎回、確実に閉じてください。USBケーブルを接続した状態で長時間空けているとゴムにクセがついて閉じにくくなることがあります。正しく閉められないときは水分や汚れにご注意ください。USBポートに何も接続していない状態でしばらく放置するとクセが取れて正しく閉められるようになります。

3-5 別売充電スタンドの使いかた・ご注意

3-5-1 充電スタンドの接続

1 別売(EDC-197)の充電スタンド後側のDCジャックにACアダプターのプラグを差し込みます。

2 ACアダプターをAC100Vのコンセントへ接続します。



3-5-2 充電の方法

1 本機に付属のバッテリーを入れます。

バッテリーの入れ方は「電池の入れ方・ご注意(☞P17)」をご参照ください。

2 本機を充電スタンドに挿入します。

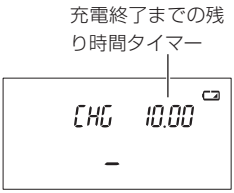
参考

・決まった電圧の弱い電流を常に流して充電する方式です。他方式の充電器のような満充電をお知らせする機能はありません。

3 充電が開始されます。

- 電源OFFのときは左のような表示がでます。
- 電源ONのときはバッテリーマークが点滅します。

充電できないときは充電機能がOFFになっていないか確かめてください。
(「7-9 充電機能設定(☞P50)」)



参考

- 過充電を防止するため、電源OFF時は10時間たつと自動的に充電を終了します。
- 受信しながらでも充電ができますが、タイマーは作動しませんので過充電にご注意ください。
- 充電中に赤色LEDを点灯させることもできます(「7-9 充電機能設定(☞P50)」)。このとき信号を受信するとランプはオレンジ色に変わります。
- 電源OFFのとき電源供給が途切れると「NO DC」と表示されます。
- 電源供給が途切れたまま1分が経過する、または電源がONになると残り時間タイマーはリセットされます。
- ニッケル水素バッテリーは継ぎ足し充電を繰り返すと劣化します。バッテリーの残量が気になるときはスペアのバッテリーや乾電池をお持ちください。
- 1か月に1度を目安に、完全にバッテリーを使い切ってから途中で使わずに電源を切って満充電する「リフレッシュ充電」をするとバッテリーを状態よく保てます。
- バッテリーや乾電池は使用時・充電時以外は抜いて保管するのが最良です。待機電流による放電、液漏れの防止になります。

注意

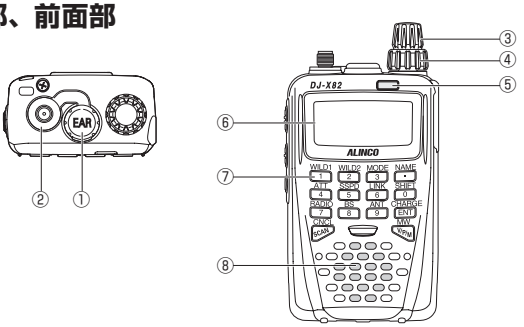
必ずお読みください。

- セットする乾電池は、タイプ・メーカーが同じで、新しいものを使用してください。
- 乾電池を交換するときは、すべての電池を新しいものに換えてください。
- 弊社指定のニッケル水素バッテリー以外は充電できません。それ以外のバッテリーを使って生じた、身体・財産へのいかなる損害・傷害についても弊社は一切の責任を負いません。
- 電池類と接する電極の汚れなどをときどき清潔な乾いた布や綿棒で掃除してください。
- ACアダプター (EDC-139)を使用しないときは、必ず電源コンセントから外しておいてください。充電しながら受信すると、ノイズが混じることがありますが、異常ではありません。
- 充電中は本機を揺らしたり、USBケーブルの無駄な抜き差しを繰り返したりしないでください。充電タイマーがリセットされるなど正しく充電できません。

4. 各部の名称と操作

4-1 本体の名称と動作

4-1-1 上面部、前面部

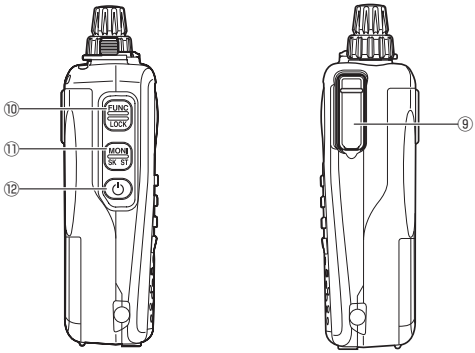


No.	名称	機能
①	イヤホン端子	イヤホンを接続します。ステレオでは片耳しか鳴りません。
②	アンテナコネクター	付属のホイップアンテナや市販のアンテナを取り付けます。本機側のコネクターはSMA-J、アンテナ側はSMA-Pです。
③	ダイヤル	ダイヤルを回すと周波数が変わります。F 点灯中にダイヤルを押すとセットモードにはいります。
④	リング	リングを回すと音量の調整ができます。他、セットモード時にも使用します。
⑤	ランプ	スケルチが開くと緑色に、設定によって充電時、赤色に点灯します。
⑥	ディスプレイ	本機の状態を表示します。詳細は後述します。
⑦	テンキー	周波数のダイレクト入力や、各種設定に使用します。
⑧	スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。

注意

- イヤホンを耳に装着する際、静電気が溜まりやすい場所や服装で装着すると、耳に静電気ショックを感じることがありますのでご注意ください。
- イヤホン端子はデリケートな部品です。ねじったり曲げたり必要以上のストレスをかけないでください。
- イヤホンやUSBケーブルを使わないときはゴムキャップを閉めてください。異物が入りやすくなり、故障の原因になります。
- プラグは必ず最後までしっかり挿入してください。中途半端に挿入された状態では、プラグ・ジャック両方が故障の原因になります。

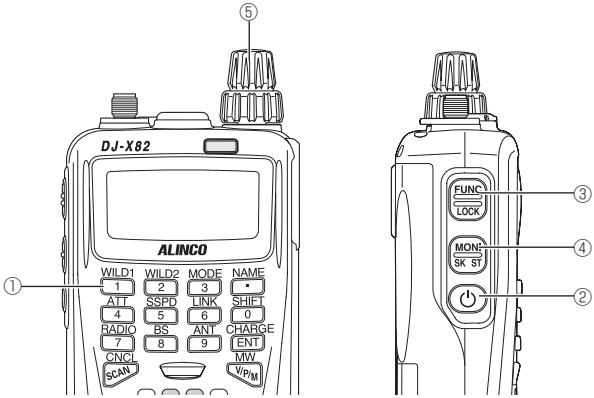
4-1-2 側面部



アンテナ側　　ダイヤル側

No.	名称	機能
⑨	USBポート	外部電源端子の他、充電やパソコンとの通信に使用します。
⑩	FUNCキー	このキーと他のキーを組み合わせて様々な操作をします。長く押すとキーロックがかかります。
⑪	MONIキー	押すとスケルチが開きます。このキーを押したままダイヤルを回すとスケルチレベルの設定ができます。
⑫	⏻	電源スイッチです。電源が入る、もしくは切れるまで長押しします。 誤動作を避けるため固めのスイッチになっています。

4-1-3 キー操作



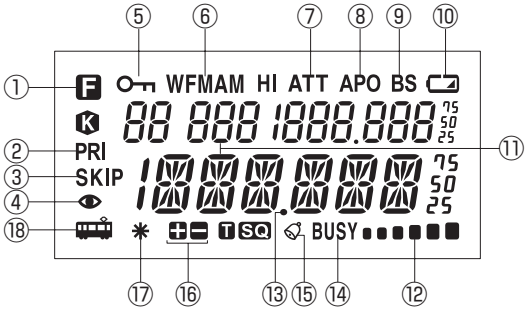
No.	名称	機能	FUNCキーを押した後	キーを長く押す（約1秒）	キーを押しながらダイヤル操作
①	1	1 を入力	ワイルドキー 1		
	2	2 を入力	ワイルドキー 2		
	3	3 を入力	電波型式切り替え		
	4	4 を入力	アッテネーター機能		
	5	5 を入力	スキャンスピード設定		
	6	6 を入力	リンク設定		
	7	7 を入力	FMラジオ		
	8	8 を入力	バッテリーセーブ機能		
	9	9 を入力	アンテナ切り替え		
	.	小数点を入力	メモリーネーム		
	0	0 を入力	周波数シフト機能		
	ENT	入力の決定、バンド/バンクの切り替え	充電機能		バンド/バンクの切り替え
	V/P/M	運用モード切り替え	メモリーチャンネルの登録・消去		
	SCAN	スキャンキー	空線信号キャンセラー設定		スキャンモードの選択
②	⏻	電源のON/OFF		電源のON/OFF	
③	FUNC	各種設定切り替え		キーロックのON/OFF	1MHz 単位のアップ・ダウン
④	MONI	モニター機能	チャンネルステップ/スキップ機能	盗聴器発見機能（＊）	スケルチ調整
⑤	ダイヤル/リング	周波数/音量/その他の設定	セットモード		

＊盗聴器発見機能はMONIキーとダイヤルを一緒に長く押すと動作します。
詳しくは「盗聴器発見機能(☞P59)」をお読みください。

参考

- ケースに印字されている文字は、FUNCキーを押した時に動作する機能の略語です。
- 多くの操作で、スキャン中はキー入力を受け付けません。操作できないときに表示の小数点が点滅していたら、CNCL SCAN キーを押してスキャンを止めてください。

4-2 ディスプレイの表示



リセット時に出てくる全点灯状態です。番号が無いマークは本機では未使用です。

No.	名称	機能
①	F	FUNCキーを押すと点灯します。
②	PRI	プライオリティ機能がONのときに点灯します。
③	SKIP	スキップ設定時に点灯します。
④	👁	盗聴器発見機能ONのときに点灯します。
⑤	🔑	キーロック状態の時に点灯します。
⑥	WFMAM	電波型式（AM、FM、WFM）を表示します。
⑦	ATT	アッテネーター動作時に点灯します。
⑧	APO	オートパワーオフ機能がONのときに点灯します。
⑨	BS	バッテリーセーブ機能がONのときに点灯します。
⑩	🔋	電池残量が少なくなると点灯します。
⑪	8	受信周波数や各設定内容などを表示します。
⑫	▪▪▪▪▪▪	受信信号の強さを表示します。
⑬	•	スキャン時に点滅します。
⑭	BUSY	スケルチが開くと点灯します。
⑮	🔔	ベル機能有効時に点灯します。
⑯	＋－	シフト方向を表示します。
⑰	＊	メモリーチャンネルをお気に入り登録時に表示されます。
⑱	🚃	空線信号キャンセラー設定時に点灯します。

5. 基本操作

※本書中､｢キーを押す｣はキーを短くしっかり押してからすぐに指を離すことを指します｡｢キーを長く押す、長押しする｣は、その機能が始まるまでキーを押し続けることを指します。間違って押すと思わぬ動作をすることがありますので、ご注意ください。

5-1 電源を入れる、切る

1 ⏻ キーを長く押すと電源が入ります。誤操作を防止するため、キーを長く押さないと電源が入りません。

電源を切るときも同じ操作をします。

5-2 音量を調整する

音量調整範囲は0 ～ 32までの33段階です。
初期値は10です。

1 電源キーの上の[MONI]キーを押すと｢ザー｣とノイズが聞こえるのでリングを回して、適当な音量にします。[MONI]キーを離すとノイズが消えます。

音量レベルが表示されます。
音量は時計回りで増加、反時計回りで減少します。

注意

- イヤホンを使用するときは音量にご注意ください。小さいレベルから始めて実際に音量を確かめながら大きくしてください。
- イヤホン類で音声や音楽を大きな音で聞き続けていると聴力障害の原因となることがあります、音量はこまめに調整してください。聴力に異常を感じたときは、すぐに使用を止めて医師にご相談になることをお勧めします。

参考

音が出ないときは

- スケルチが閉じているときや、ミュート機能が動作しているときは音量を大きくしても受信音は聞こえません。
  詳細は、次の｢スケルチを調整する（☞P27）｣と｢モニター /ミュート機能（☞P28）｣をお読みください。

5-3 スケルチを調整する

●スケルチとは

受信信号がないときにスピーカーから聞こえる耳障りな「ザー」というノイズを消して待ち受けしやすくする機能です。
スケルチのレベルを上げると弱い信号は受信できなくなります。
信号を受信して音が出ることを「スケルチが開く」と呼び、逆の場合を「スケルチが閉じる」と呼びます。このレベルは受信場所や受信周波数などの条件によって若干変化するので調整できるようになっています。

スケルチレベルの調整範囲は0 ～ 9までの10段階です。
スケルチレベルの初期値は3です。

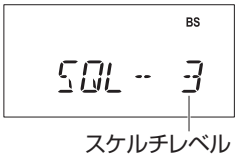
パソコンを使ったデータ通信のデコードなどでは、開放状態で使います。

5-3-1 操作方法

1 ダイヤルを短く押して指を離します。

2 イラストのような表示が出ます。

反時計方向に回し切って0になると「ザー」とノイズが鳴ります。
時計方向に回して「ザー」音が消えたレベルから1～2レベル大きな数字に設定します。
受信場所の条件が変わってノイズでスケルチが開くときは少しづつレベルを上げて様子を見てください。



【重要】
スケルチが閉じていないと後述のスキャン（自動選局）はできません。
はっきり聞こえる強い信号だけを受信したいときは敢えてスケルチレベルを上げておくこともあります。音声が途切れる時は次項のモニター機能を使います。

5-4 モニター /ミュート機能

- モニターは受信信号が弱いとき、スケルチに消されて途切れ途切れに聞こえるときに一時的にスケルチを開く機能です。
- ミュートとは消音機能です。ミュート時は信号を受信しても音が出力されません。受信中に電話がかかってきた…というようなときに素早く消音できます。

モニターとミュートは「モニター /ミュート機能の設定(☞P70)」で選んで設定します。

モニター /ミュート機能にはPUSHとHOLDの2種類があります。いずれも[MONI]キーを押すことで動作します。
モニターのときはディスプレイに「BUSY」が点灯し、スケルチが開きます。
ミュートのときはディスプレイの「BUSY」が点滅し、音声を出さなくなります。

- PUSH設定では[MONI]キーを押している間だけモニター /ミュートが動作します。
  HOLD設定では一度[MONI]キーを押すとモニター /ミュート状態を保持、再度[MONI]キーを押すと動作前の状態に戻ります。
- PUSHとHOLDの切り替え方法はセットモードの「MONIキー動作の設定(☞P70)」をお読みください。

参考

- モニター機能とミュート機能はいずれか一方しか選べません。
- モニター動作中は空線信号キャンセラーも一時的に解除されます。

6. 運用モード

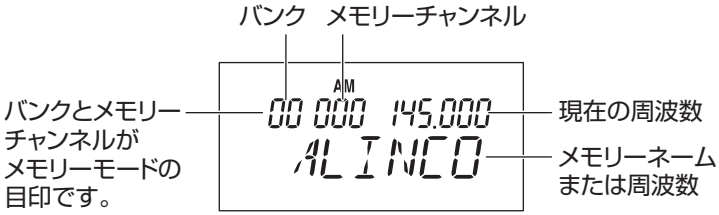
DJ-X82にはVFOモードとメモリーモードの2つの運用モードがあります。

VFOモード	VFOは無線用語（可変周波数発振器）で、あらかじめ知っている周波数に合わせるときや、受信周波数を上下に連続してスキャン（自動選局）するときに使います。
メモリーモード	あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。

・ 運用モードの切り替え：図は、各モードの表示例を表します。
MW V/P/M キーを押すごとにモードが切り替わります。

●VFOモード

●メモリーモード



（画面は一例です。）

6-1 VFOモードでの受信

周波数の上にvFoが表示されているときは、ダイヤルやキーボード操作で受信周波数を選びます。

- ダイヤルを回すごとにその周波数で最適と思われる数(ステップ)だけ周波数が変化します。
- ENTキーを押すごと、または押したままダイヤルを回すと下表の様な通信が行われている周波数帯(バンドと言います)に大きく移動できます。
- いずれも出荷状態のステップがAUTO設定では、例えば144MHzアマチュア無線の周波数ではFMモードの20KHzステップ、VHFエアバンドではAMモードの25KHzや50KHzステップになります。

初期値	周波数範囲
118.000	(108.000～141.975MHz)
145.000	(142.000～148.000MHz)
148.010	(148.010～169.990MHz)
225.000	(170.000～322.000MHz)
322.025	(322.025～322.400MHz)
415.200	(332.500～429.9875MHz)
433.000	(430.000～439.980MHz)
464.000	(440.000～469.9875MHz)

- [FUNC]キーを押しながらダイヤルを回すと1MHz単位で増減するので素早く目的の周波数の近くに移動できます(1MHzアップ・ダウン)。指を離してダイヤルを回し、微調整します。

参考

- 1MHz アップ･ダウン操作時は､各バンドの範囲に関係なく増減します。
- [FUNC]キーを押したまま一度もダイヤルを回さずにいるとピピピと警告が鳴りキーロックします。鍵のマークが出たときはマークが消えるまでFUNCキーを長押しします。
- チャンネルステップの関係上、1MHz単位で増減から外れる場合があります。
- 一部表示されない周波数があります。

周波数を直接入力するときの操作

受信したい周波数を直接入力するとき

例1：450.250MHz ＝ ATT 4 SSPD 5 SHIFT 0 NAME ▪ WILD2 2 SSPD 5 CHARGE ENT

例2：119.000MHz ＝ WILD1 1 WILD1 1 ANT 9 CHARGE ENT

例3：460.0375MHz ＝ ATT 4 LINK 6 SHIFT 0 NAME ▪ SHIFT 0 MODE 3 RADIO 7 SSPD 5 CHARGE ENT

※初期状態のステップがAUTO設定では、460.037で CHARGE ENT キーを押すと460.025MHzになります。
この状態でダイヤルを右にワンクリックしても460.0375MHzにできます。

周波数を間違えて入力したときはダイヤルを回すと初めから入力をやり直すことができます。受信モード（☞P44）をATにしておけば変更した周波数にプログラムされた電波型式に自動で切り変わります。

参考

- 主要波が限られているエアバンドの管制を受信するとき、この数字キー入力が便利です。
  例えば118.1ENTとキーを押せば118.100MHzに、119.5ENTで119.500MHzにすぐ変えられます。
  周波数を覚えるかメモしておけば、後述のメモリーチャンネル操作より簡単です。管制官の指示の周波数もすぐに入力できます。

チャンネルステップ（ステップ）の変更

無線通信や放送に割り当てられた周波数と周波数の間隔をステップと言います。

ステップはAUTO時、本機が設計された時点で最適と思われる状態にプログラムしてあります。但し本機ではUHF業務用無線が同調するようAUTO設定しましたが、UHFの軍用航空無線はそれらの隙間を使うことがあり、AUTOのステップや電波型式では受信できないことがあります。このような時はステップを変更します。

注意

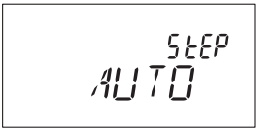
- AUTOを解除すると全てのバンドが選択したステップに固定されます。電源を切ってもステップはAUTOに戻りません。
- 別のジャンルを受信するときはAUTOに戻さないと目的の周波数に同調できなくなります。

●選択できるチャンネルステップ

Auto、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz

VFOモードでチャンネルステップを変更したい周波数に合わせます。

- [FUNC] キーを押し、[F]マークと数字が表示されたら [MONI] キーを押します。ディスプレイに「AUTO」が表示されます。
- 再度[MONI]キーを押すと「AUTO」からチャンネルステップ(数字)表示に変わります。
- ダイヤルを回してチャンネルステップを選びます。UHF航空無線は100kです。
  ※ Hzは省略して表示されます。
- 再度[MONI] キーを押すと「AUTO」に戻せます。
  [FUNC] キーを押すと設定が完了し、ディスプレイは周波数表示画面に戻ります。

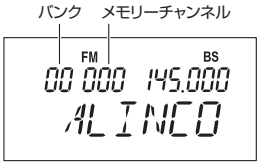


6-2 メモリーモードでの受信

メモリーモードとは、あらかじめよく使う周波数などを登録しておき、受信したい周波数を呼び出して使うモードです。
周波数を使いやすいようにジャンル分けして登録する場所を「バンク」と呼び、登録された周波数を「チャンネル」と呼びます。本機には別冊の周波数データリストのように、現時点で受信できると思われるチャンネルをメモリーデータに書き込んでいますが、それを編集することもできます。

1 VFOモードから MW V/P/M キーを押すと、ディスプレイにバンクとメモリーチャンネルが表示されメモリーモードになります。

※ 後述のプライオリティ受信(☞P.51)登録をするとVFOとメモリーモードの間に「Prl数字」が表示されることから、VFO/Priority/Memoryの頭文字を取りV/P/Mキーのモード切り替えは2回押すことになります。



(この図は一例です。)

2 CHARGE ENT キーでバンクを選択します。

CHARGE ENT キーを押しながらダイヤルを回してもバンクを選択できます。

3 受信したいチャンネルを選びます。

- ダイヤルを回すか数字キーで入力します。

例：001CH = WILD1 1 CHARGE ENT / 012CH = WILD1 1 WILD2 2 CHARGE ENT / 123CH = WILD1 1 WILD2 2 MODE 3

ENT操作無しで001/012と押しても入力できます。
登録されていないバンク、チャンネルは選択できません。

6-2-1 メモリーの種類と使いかた

DJ-X82には以下の7種類のメモリーバンクがあります。

通常メモリーバンク (登録済CHあり)	メモリーモードで呼び出す通常のチャンネルです。合計1000chの周波数を登録できます。よく使う周波数を登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。
クイックメモリーバンク	VFOモードで見つけた周波数を簡単に200chまで登録するバンクです。VFO/プログラムスキャン中でもメモリーできます。
プログラムスキャンバンク (登録済ペアあり)	決められた周波数範囲の中で信号を探すプログラムスキャン機能に使用します。50組の周波数範囲(上限と下限)を登録できます。必ずA/bペアで登録します。
サーチパスメモリーバンク	スキャン時に停止してほしくない周波数を登録しておくと、VFOスキャンとプログラムスキャンにその周波数では止まりません。100chの周波数を登録できます。常に出ているノイズ信号などを登録すると便利です。
クイックサーチパスメモリーバンク	サーチパスしたい周波数を簡単に200chまで登録するバンクです。VFO/プログラムスキャン中でもメモリーできます。
プライオリティバンク	プライオリティ機能(優先受信)に使用します。100chの周波数を登録できます。
盗聴器発見機能バンク	盗聴器でよく使われている周波数を登録してあります。メモリーの登録や消去はできません。メモリースキップのみ変更できます。

注意

- サーチパスメモリー用バンクは、同じ周波数を重複して登録することはできません。登録しようとするとエラー音が鳴ります。
- 工場出荷時にメモリーに書き込まれているデータは弊社で独自に編集しておりますが、周波数の割当てや受信モードなどは変更になることがあります。データの信頼性は保証しておりません。

クイックメモリーとクイックサーチパスメモリーの操作

1：VFOモードでメモリーしたい周波数を選びます。クイックメモリーは受信したいもの、クイックサーチパスはVFOスキャンから外したいものです。スキャン中でも手入力でも構いません。登録したい周波数と受信モード(P44)にします。

2：クイックメモリーはFUNCキーを押した後、クイックサーチパスメモリーはそのままダイヤルを長押しします。

3：「ピ」と鳴って AT-000、P2-000 のような表示が出たら完了です。受信画面やスキャン状態に戻ります。000はCH番号で、小さい順に自動で割り当てます。
通常のメモリーバンクと同じ操作で編集、削除ができます。

6-2-2 メモリーチャンネルの登録 ＊次のページに表示のイラストがあります。

1 VFOモードで登録したい周波数に合わせます。

2 ［FUNC］キーを押してディスプレイ左上に F を点灯させます。

（このときバンクやメモリーチャンネル番号なども表示されます。）

3 リングを回してバンクを選びます。

バンクとメモリーの関係は次のとおりです。

0 ～ 9	通常メモリーバンク (メモリーデータ変更などの理由で、初期設定の0 ～ 9は変更になる場合があります。PC編集ソフトを使うと50個まで拡張できます。)
At	クイックメモリーバンク　＊手入力もできます。
PS	プログラムスキャンバンク
PA	サーチパスメモリーバンク
P2	クイックサーチパスメモリーバンク　＊手入力もできます。
Pr	プライオリティバンク
bG	盗聴器発見機能バンク(編集不可)

用途に合わせて登録するバンクを選びます。

4 ダイヤルを回してチャンネルを選びます。

バンクの種類によって登録できるチャンネルは次のとおりです。

・書き込みができるチャンネルは「_ _ _ _ _ _」が点滅します。

0 ～ 10	000 ～ 999 （バンクの仕切り方によって登録できるチャンネル数は異なります。）
At	0 ～ 199
PS	0A/0b,1A/1b ～ 49A/49b
PA	000 ～ 099
P2	000 ～ 199
Pr	000 ～ 099

5 MW V/P/M キーを押すとメモリーに周波数が登録されます。

ビープ音がなりVFOモードに戻り、次のチャンネルを編集することができます。

参考
・初期設定ではメモリーチャンネルは編集、上書き、消去が自由にできます。
・セットモードの「メモリー保護機能（初期値OFF）」をONにすると登録したデータは一切編集できなくなります。編集するときはOFFに戻します。

例：337.900MHz　AM　をバンク9番の001チャンネルに登録する

① VFOモードで周波数を337.900に合わせます。
ダイヤルや数字キーで入力します。AUTO設定だと自動でFMモードになります。

② [FUNC]キーを押した後、MODE 3 キーを押すと「WAV－ＡＴ」が表示されるのでダイヤルを回して「WAV-AM」にします。[FUNC]キーを押して確定します。

③ もう一度[FUNC]キーを押すとメモリーモード同様の小さな数字が表示されます。

④ リングでバンク09、ダイヤルで001を選びます。何も登録が無ければ「------」のような表示がでます。書き込まれたデータは上書きできるので操作を続けます。

上書きしたくないときはダイヤルを回して別の空いたメモリーチャンネルを探します。

⑤ MW V/P/M キーを押します。

「ピ」と鳴ってVFOモードに戻れば終了です。MW V/P/M キーの上の印字MWはメモリーライト(メモリー書き込み)と覚えてください。MW V/P/M キーを押してメモリーモード操作をすると呼び出せます。

⑥ 上記２の操作をしてWAV-ATに戻しておきます。戻さないとどの周波数でもAMモードになります。

●メモリー登録例の図

注意

・ プログラムスキャン（PS)チャンネルバンクは○○Aと○○bの2つのチャンネルを登録して使います。詳しくは「8-2 スキャン機能(☞P53)」をお読みください。

●メモリーに登録が可能な項目

メモリーチャンネルには、下記の内容を記憶することができます。

・シフト周波数　・シフト方向　・空線信号周波数
・お気に入り設定　・受信モード(電波型式)　・空線信号キャンセラー
・メモリーネーム　・スキップ設定　・周波数ステップ

参考

・メモリーの追加増設はできません。
・登録したメモリーチャンネルは、周波数の代わりにアルファベット、記号、数字を表示することができます。詳細は「メモリーネーム機能(☞P40)」をお読みください。

6-2-3 メモリーチャンネルとバンクの消去

盗聴器発見機能バンク以外の全てのバンク・チャンネルを消去できます。

1 「メモリー保護機能(☞P72)」をONに変更していれば初期値のOFFに戻します。

初期設定ではFUNCキー押下後 WILD2 2 キーを押すとショートカットできます。クイックメモリー、クイックサーチパスメモリーでは、メモリー保護機能は動作しません。

2 MW V/P/M キーを押して、メモリーモードにします。

3 消去したいメモリーチャンネルを選びます。

4 [FUNC] キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

5 F が点灯中に MW V/P/M キーを押すとメモリーされた周波数が消去されます。

MW V/P/M キーを長く押すと「BANK?」が表示され、もう一度 MW V/P/M キーを長く押すとそのチャンネルが含まれるバンク全てのチャンネルが消去されます。

注意

・一度消去したデータの復元はできません。間違って必要なデータを消去しないようご注意ください。弊社HPで配布する編集ソフトでメモリーデータをバックアップ保存できます。

参考

上記の項目の内、受信モード、メモリーネーム、スキップ設定、お気に入り設定、周波数ステップはメモリー登録した後でも変更ができます。弊社製の他の多くの受信機や無線機とは異なりますが、本機では以下のような理由で敢えて仕様を変更しています。

- AUTO設定でUHFエアバンドを入力するとFMモードになる帯域があり、間違ってメモリーして、後で気付く事がある。
- 本機はVFO設定ではなくPSメモリーしたモードとステップでサーチする。
  同じメモリーした帯域を違うモードとステップでサーチするとき、この設定で変更すれば、PSペアCHを違うモードとステップで2つ登録しなくて済む。

それ以外の項目は一時的に変更できますが、CH設定や電源操作をすると戻ります。

弊社ウェブサイト（https://www.alinco.co.jp/☞電子事業部）より無償でダウンロードできるソフトウェアを使用すると、これらのメモリーバンクを1000ch以内の任意のチャンネル数×最高50バンクまで自由に区切ることができるようになります。

- この操作を本機単体のボタン操作だけで行うことはできません。
- PC接続は付属のUSBケーブルが対応します。

6-2-4 メモリーチャンネルの別バンクへの移動

登録したメモリーチャンネルを別のバンク・チャンネルに移動できます。

1 メモリーモードで移動したい周波数を選びます。

2 [FUNC]キーを押した後、NAME キーを長く押します。

画面右上に小さく、周波数が表示され F マークが点滅します。

3 リングで移動先のバンク番号を、ダイヤルでチャンネルを選びます。

「_ _ _ _ _ _」と表示されるチャンネルには、すぐに移動できます。周波数が書かれているチャンネルはメモリー保護機能（☞P72）を解除しておかないと上書きできません。

4 NAME キーを長く押すと移動します。

[FUNC]キーを押すとキャンセルされます。

6-2-5 メモリーチャンネルをVFOモードにコピーする

メモリーチャンネルの周波数をVFOモードにコピーします。メモリーチャンネルから少し周波数をずらして受信したいときや、メモリーチャンネルを編集するときに便利です。

1 メモリーモードでVFOモードにコピーしたいチャンネルを選びます。

2 ダイヤルを長く押すと周波数はメモリーチャンネルのままVFOモードに切り替わります。

6-2-6 メモリースキップとお気に入り選択機能

(1) メモリースキップ

メモリースキャンのときに、設定したメモリーチャンネルを飛ばす機能です。放送や空線信号の出ているチャンネルは必ずそこでスキャンが止まるので、そのようなチャンネルに設定しておくと効率の良いスキャンが行えます。

1 メモリーモードでスキップさせたいメモリーチャンネルを選びます。

2 [FUNC] キーを押してディスプレイに F や数字が点灯したら [MONI] キーを押します。

ディスプレイ左に「SKIP」が表示されます。
メモリースキップを解除するには対象のチャンネルを選んで操作を繰り返します。
「SKIP」の表示が消え、メモリースキップが解除されます。

(2) お気に入り選択

スキップとは逆に設定したメモリーチャンネルだけをスキャンする機能です。

1 メモリーモードで[FUNC]キーを押した後、ダイヤルを押します。

「<DISP>」のような<　>にローマ字が入ったセットモードメニューが表示されます。

2 リングを回して「<SCAN>」を選び、ダイヤルを押し下げます。

「SLS 2-SEC」のような表示に変わります。

3 リングを回して「SCSP　SKIP12」のようなメニューを選び、ダイヤルを回して「FAV」に合わせたら[FUNC]キーを押します。(お気に入り、Favoriteの略と覚えてください。)

4 メモリーモードに戻ります。全てのメモリーチャンネルに「SKIP」が表示され、メモリースキャンできない状態です。

5 スキャンしたいチャンネルで[FUNC]キーを押した後、すぐ下の[MONI]キーを押します。「SKIP」が消え、左下に「＊」が表示されます。操作を繰り返すと「SKIP」が表示され、スキャンできない状態に戻れます。

6 上記の操作を繰り返してスキャンしたいチャンネルだけに「＊」を表示させたら[ＳＣＡＮ]キーを押します。

7 通常のスキップ動作に戻すときは[FUNC]キーを押した後にダイヤルを押して「SCSP　FAV」を表示、ダイヤルを回して「ＳＫＩＰ１２」を選んで[ＦＵＮＣ]キーを押します。

初期値に戻ります。

※他のスキャンスキップ設定は後述の「セットモード」で説明します。

(3) スキップ/お気に入りにした設定をリセットする。

スキップとお気に入り選択を一度に解除できます。他の設定には一切影響しません。

旅行中など受信場所が短時間で変わるとき、一度に消去できるほうが使い勝手が良くなります。

1 電源を切り、[SCAN]キーを押したまま電源を入れます。全表示が出たら指を離します。

6-2-7 メモリーネーム機能

メモリーモードで登録したメモリーチャンネルにアルファベット、記号、数字を合わせて6文字まで名前を付けることができます。

※ クイックガイドに入力方法の例が記載されています。

1 メモリーモードにします。

2 名前を付けたいメモリーチャンネルに合わせます。

3 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

4 NAME **を押します。**

ディスプレイ右上に周波数が表示され、画面左にカーソルが点滅します。

5 キーやダイヤルを操作して文字を選択します。

文字を選ぶにはダイヤルを回します。カーソルを左右に動かすにはリングを回します。MW V/P/M キーを押すと編集した文字を全て消せます。

6 登録したい最後の文字が点滅したら[FUNC]キーを押します。

メモリーネームが登録されます。

・ 入力できる文字の一覧

	0		A		N		a		n		!		.	—
	1		B		O		b		o		"		/	`
	2		C		P		c		p		#		:	{
	3		D		Q		d		q		$		;	|
	4		E		R		e		r		%		<	}
	5		F		S		f		s		&		=	^
	6		G		T		g		t		'		>	スペース
	7		H		U		h		u		(		?	
	8		I		V		i		v		)		@	
	9		J		W		j		w		*		[	
			K		X		k		x		+		¥	
			L		Y		l		y		,		]	
			M		Z		m		z		–		´	

参考

メモリーネームを消去するには？

・ 上記の **1** から **4** まで操作した後で MW V/P/M キーを押してから[FUNC]キーを押すと、メモリーネームを消去できます。

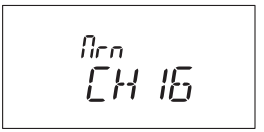
6-3 国際VHF(マリン無線)

国際VHFマリン無線は船舶の航行用無線で、航空無線のように特定のルールに従って運用されています。商工業港や船舶の航路付近で良好に受信できます。大型船舶や基地局は高い場所にアンテナがあるため電波の飛びが良く、港や船が見えない場所でも受信できることがあります。１６ｃｈが呼び出しチャンネルで、全ての局は通信しないときは16chで待ち受けする国際ルールがあります。「国際ＶＨＦの運用方法」で検索、総務省の関連ＨＰを参照ください。

参考 もしFUNCと WILD1 1 キー操作でCH16が表示されないときは、セットモードで別の機能をWILD1に割り当てられています。後述の9-5-3 ワイルドキー（１・２）への機能割り当て(☞P71))をお読みください。

1 **[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させ、WILD1 1 キーを押します。**

初期設定では WILD1 1 キーにマリン無線が設定されています。



2 **イラストのような国際VHFマリンチャンネルになります。**

●国際VHF(マリン無線)のスキャン

CNCL SCAN キーを押しながらダイヤルを回すと「SCAN」か「DUAL」を選べます。CNCL SCAN キーから指を離すと、選択したスキャン方法でスキャンを開始します。

SCAN＝ 1chから88chまでをスキャンします。
半複信チャンネル(▬ マークのあるチャンネル）は海岸局側を受信します。スキャンを止めて SHIFT 0 キーを押すと船舶側を受信できます。

DUAL＝ 半複信チャンネルを受信中にDUALを選択すると、海岸と船舶の両チャンネルを交互に受信します。単信チャンネルでは動きません。

- スキャン中に表示される＊マークは船舶側のチャンネルの表示です。
- NAME • キーを押している間はどのチャンネルに合わせていても16chが受信できます。スキャン中でも16ｃｈで待ち受けできます。
- SCANを飛ばすSKIP指定もできます。

3 スキャンを止め、MW V/P/M キーを押すとメモリーモードになり、マリン受信モードを終了します。

6-4 受信について

注意

- DJ-X82は広い範囲の電波を受信する反面、特定の周波数帯専用に作られた無線機と比べると、専用の製品に感度や音質、音量などが劣ることがあります。これは使用目的が異なる製品であるためで、異常ではありません。

- 通信は放送ではありません。必要な時に、最小限の設備で通話をおこなうため、頻繁に電波が出ている通信は非常に少ないものです。
- 信号を受信していないときに聞こえるノイズ（バックノイズ、ホワイトノイズなどと呼ばれる物）は、電波型式や空中状態、周波数などによって聞こえ方や音の大きさ、音質が変わります。
- 使用する電源（AC電源と電池等）、場所や条件（蛍光灯やテレビなど電気機器の有無、木造と鉄筋、お住まいの地域[内陸では船舶無線は受信しにくい等]、立ち止まっているか歩いているか…）、気象条件など様々な要因で受信できる通信は大きく変わります。
- 付属のようなホイップアンテナは、主に目的の通信の発信場所の近くで受信するために設計されています。建物の中、発信地（管制塔、港…）から離れている、など条件が悪いときは、屋根やベランダにアンテナメーカー製の無線受信用の外部アンテナを設置すると改善します。無線機販売店にご相談ください。
- 放送局の電波塔や、送信所・中継所が集中する山の近くなど強電界地域では、例えば飛行機の周波数にラジオ放送の音声が聞こえたり（混変調）、受信感度が極端に悪くなる（抑圧）ようなことがあります。後述するアッテネーター機能を使えばこれらの混信や妨害を低減できます。
- 現在受信できる信号がデジタル化やデータ通信化して受信できなくなることがあります。本機のAUTO設定（ステップ、受信モード）は設計時のもので、将来変化することも予想されます。割り当てが変わったときなどは、ステップやモードを個別に設定してプログラムスキャンに登録すると対応できます。AUTO設定を変更することはできません。

7. キーボードに割り当てられた機能

DJ-X82では各キーの上部に印字されている機能がキーに割り当てられています。割り当てられた機能を操作するには、[FUNC] キーを押してディスプレイに F を点灯させてから、キーを押します。

7-1 ワイルドキー機能(ショートカット)

WILD1 1、WILD2 2 キーのそれぞれに、セットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。
よく使う機能を登録しておくと、すばやく操作できます。
機能の登録方法は「ワイルドキー(1・2)への機能割り当て(☞P71)」を参照してください。

- WILD1 1 キーの初期設定は「国際VHFマリンモード」、WILD2 2 キーは「メモリーデータ保護(プロテクト)」です。

1 [FUNC] キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 WILD1 1 キーまたは WILD2 2 キーを押して割り当てた機能を呼び出します。

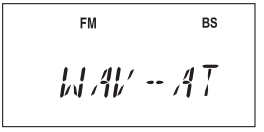
3 その後の操作は割り当てたセットモードの操作に沿って行います。

7-2 受信モード切り替え機能

受信したい信号の電波型式を手動で選ぶことができます。

1 [FUNC] キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 MODE 3 を押します。
ディスプレイに「WAV-AT」と表示されます。



3 ダイヤルを回すか MODE 3 キーを押して受信モードを選択します。

受信モードの説明

AT	オート	：あらかじめプログラムされている受信モードを自動的に選択します。
AM	振幅変調	：主にAMラジオ、短波放送や航空無線などに使用されています。
FM	周波数変調	：アマチュア無線や業務無線などの通信に使用されています。

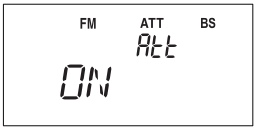
4 ［FUNC］キーを押して、設定を完了して終了します。

7-3 アッテネーター（ATT）機能

自分が受信している周波数のすぐ近くに別の強い信号があって、その影響と思われるガサガサしたノイズや混信のようなものが聞こえるときに使います。ONに設定すると目的の信号の強さは弱くなりますが、不要な電波も弱くなるため結果として目的の信号をクリアに聞くことができる場合があります。減衰量は約20dBです。通常は必ずOFFにしてください。

1 [FUNC]キーを押した後、ATT 4 を押します。

2 ダイヤルを回し「ON」にするとディスプレイ上側に「ATT」が点灯してATT機能が動作します。



参考

受信感度が悪くなったと感じた時は、まず表示にATTマークが出ていないか確認してください。

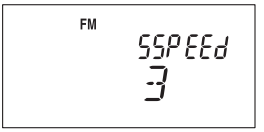
3 ［FUNC］キーを押して、設定を完了して終了します。

7-4 スキャンスピード切り替え機能

スキャンスピードを変更できます。
強い信号のみを素早く見つけたいときはスピードを速く、弱い電波も受信したいときはスピードを遅くします。

1 ［FUNC］キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

2 SSPD 5 を押します。



数字が表示されダイヤルを回すと5段階でスピードを調整できます。初期値は3です。

スキャンスピードは

「1」遅い　約50 (ch/step)/秒 ⟷ 「3」初期設定　約160/秒 ⟷ 「5」速い　約250/秒

の順で設定できます。

3 ［FUNC］キーを押して、設定を完了して終了します。

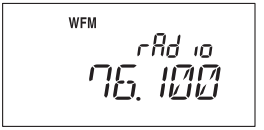
参考
- スキャンスピードを速くしすぎると、弱い信号ではスキャンが止まりません。

7-5 FMラジオ

FMラジオを受信することができます。

1 ［FUNC］キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

2 RADIO 7 を押すと右の画面に変わります。



ダイヤルを回して受信したいFMラジオの周波数に合わせてください。
- スケルチをかけてスキャンもできますが、スピードは固定でゆっくりです。
- 本体の受信構成から独立した専用回路で動作します。本体とは別の「FMラジオ」になる、とご理解ください。音量なども本体の設定とは僅かに異なることがあります。

3 **1** と **2** の操作を繰り返すとVFOモードに切り替わってFMラジオ受信を終了します。

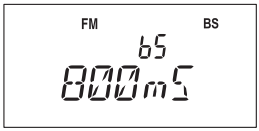
7-6 バッテリーセーブ機能

待ち受け受信中の消費電力を抑え、バッテリーを長持ちさせる機能です。

1 **[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。**

2 **BS 8 を押します。**

ディスプレイに「ｂＳ」と表示されます。



3 **ダイヤルを回すと「OFF」⟷「200mS」～「1800mS」を設定できます。数字が大きいほどバッテリー消費を抑えられます。**

OFF以外はディスプレイに「BS」が点灯します。

- 工場出荷時は800mSに設定されています。通常はOFFにする必要はありませんが、アマチュア無線で行われているパケット通信や航空無線のACARSのようなデータ通信を受信するときはOFFにしてください。
- 信号を受信したり、スキャンを行っている間はバッテリーセーブ機能は働きません。バッテリーセーブ時間を長くする（数字を大きくする）と、信号を受信したときに音声のはじめが途切れることがあります。

4 **[FUNC]キーを押して、設定を完了して終了します。**

7-7 イヤホンアンテナ

イヤホンアンテナを選択すると、FMラジオのような強い信号を外部アンテナなしで受信できます。

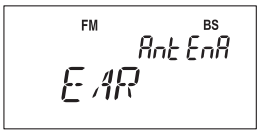
1 **[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。**

2 **ANT 9 を押します。**

ディスプレイに「AntEnA」と表示されます。

3 **ダイヤルを回すと「SMA」から「EAR」になり、イヤホンをアンテナとして利用できます。**

ディスプレイに右のように表示されます。



4 [FUNC]キーを押して、設定を完了して終了します。

参考
- イヤホンのコードの状態(長さ、巻き方、コードの向き、移動中、など)によって受信信号の強さや安定度が変わります。
- イヤホンアンテナはFM放送や近くから出ている強い電波でないと正しく受信できません。特定の周波数にチューニングしたものではありません。
- 市販のイヤホンでも動作します。

7-8 周波数シフト機能

現在受信している周波数に対して、ワンタッチで受信周波数をずらす機能です。例えば、レピーター(中継器)では、送信周波数(アップリンク周波数)と受信周波数(ダウンリンク周波数)の2つを使って通信しています。この機能を使用するとワンタッチで両方のチャンネルを切り替えられます。
この周波数の差をシフト幅と呼びます。

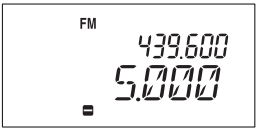
7-8-1 設定のしかた

1 シフト設定したい周波数やチャンネルに合わせてから[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

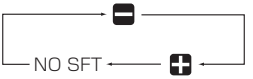
通常は受信しやすい中継器のダウンリンクや基地局側の周波数を選びます。

2 SHIFT 0 を押してシフトさせたい周波数の方向に合わせます。

キーを押すごとに表示が右のように切り替わります。



表示される大きな数字はバンドによって変わります。



⊖ : 受信している周波数より低い方向にシフトします。

⊕ : 受信している周波数より高い方向にシフトします。

NO SFT : シフトしません(初期値)

3 ダイヤルを回しシフトさせる周波数幅を設定します。

AUTO設定のステップ幅に合わせて変わります。予め固定ステップを選んでおけばそのステップで変更できます。[FUNC] キーを押したままダイヤルを回すと1MHz単位で周波数変更できます。

4 [FUNC] キーを押して、設定を完了して終了します。

例：アマチュア無線の中継器 439.600MHz -5MHzシフトを設定する

① ＶＦＯかメモリーモードで439.600 FM に合わせます。
② [FUNC]キーを押した後 SHIFT 0 キーを押すと前ページのような画面になります。
③ SHIFT 0 キーを操作して[-]マークを選択します。
④ ダイヤルを回して5.000(MHz)に合わせます。
＊このバンドではシフトは５MHzに自動で設定されます。
⑤ [FUNC]キーを押して、設定を完了して終了します。

5 中継器の信号を受信中、SHIFT 0 キーを押します。

押している間、アップリンク側の局が受信できる場所に居れば、その信号を受信します。表示の右上に元の周波数、下に大きくシフト後の周波数が表示されます。

参考

・常にシフト設定で受信したいときはメモリーチャンネル登録時にシフト設定も登録してください。VFOモードで上記の様な操作をして、受信できることを確認したら、そのままメモリー登録操作をしてください。

シフト機能を解除するときは、[FUNC] キーを押してディスプレイに F を点灯させ、「NO SFT」が表示されるまで SHIFT 0 キーを押して、再度 [FUNC] キーを押してください。

注意

・スキャン中はシフト機能は動作しません。
・メモリーモードでシフト設定した場合、チャンネルを上書きしないと設定は保存されません。チャンネルの上書きをしない状態でチャンネルを変えるなどの操作をするとシフト設定は解除されます。

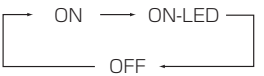
7-9 充電機能設定

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

2 CHARGE ENT を押します。

ディスプレイに「CHArGE」と表示されます。

3 ダイヤルを回すと右の図のように切り替わります。



ON	充電します。(初期値)
ON-LED	充電します。充電中はランプが赤く光ります。
OFF	充電しません。

- OFFはPCで編集ソフトを使用中にPCのバッテリーで充電したくない時の設定です。

注意

- 別売充電スタンドにのせて受信する場合、常にバッテリーは充電状態になります。バッテリーを長持ちさせるためには週に1回以上は、バッテリーを使い切るまで充電スタンドから外して受信してください。
- 構造上、正常な乾電池や市販の単三形充電バッテリーはこの設定にかかわらず充電できませんが、電池の皮膜に傷があると充電ができてしまい、故障や事故の原因になることが考えられますので、ご注意ください。

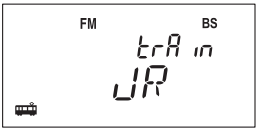
7-10 空線信号キャンセラー機能

鉄道無線で聞こえる空線信号音(「ピー」や「ギャラギャラ」音)にスケルチをかける機能です。

1 空線信号の出ているチャンネルに合わせます。

2 [FUNC] キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

3 CNCL SCAN キーを何度か押しディスプレイ左下に 🚃 マークとJR、または300 ～ 3000の数字が表示されるメニューを選びます。



4 **ダイヤルを回してピーやギャラギャラ音が消える数字に合わせます。SQ が点灯します。JRのA/B波はJRに合わせます。**

［FUNC］キーを押して、設定を完了して終了します。

●**空線信号キャンセラー機能を解除するには。**

上記 **3** のときにディスプレイにOFFが表示されている状態を選び[FUNC]キーを押します。

注意
- 周波数やトーンのズレ、信号強度などの理由から、正しく動作しないことがありますが無線機の故障ではありません。
- デジタル化した路線は受信できません。

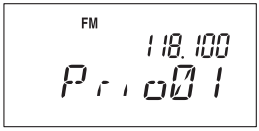
7-11 プライオリティ機能

VFOモードで2つのチャンネルを交互に受信し、待ち受け受信の効率をよくできます。
初期設定ではメイン周波数を5秒、プライオリティチャンネルを0.5秒の間隔で繰り返し受信します。

1 **メモリーモードでプライオリティバンクに、プライオリティ受信したい周波数を登録します（☞P34）**

2 **VFOモードでメイン受信したい周波数に合わせます。**

3 **MW V/P/M キーを1回押すとプライオリティ登録した周波数が右のイラストのように表示されます。**



ダイヤルを回して受信したいチャンネル番号に合わせます。

※プライオリティチャンネルを表示するようになるため、VFOとメモリーモードの切り替えがツータッチに変わります。

4 **CHARGE ENT キーを押すとVFOとプライオリティ周波数を指定の間隔で交互受信します。**

ディスプレイ左に「PRI」と表示され、プライオリティチャンネルを受信するときは ◐ が表示され、信号を受信したときはビープ音が鳴り、その信号がなくなるまで受信し続けます。

5 MW V/P/M キーを押すと、PRIが消え、プライオリティ機能が終了します。

参考

- プライオリティチャンネルにメモリーが登録されていないときは、プライオリティ機能は動作しません。
- プライオリティ機能中はスキャンできません。
- 一定の間隔で別のチャンネルを受信するため、メインチャンネルの音声が途切れて聞こえることがあります。
  ATISなど、常に電波が出ている信号を受信中は音声が途切れやすくなりますが、故障ではありません。
- プライオリティチャンネル側を受信が切り替わる間隔はセットモードの「プライオリティ待ち受け時間設定(☞P68)」で変更できます。
- プライオリティチャンネル側で受信したときの停止時間はセットモードの「プライオリティ停止時間設定(☞P68)」で変更できます。

8. 便利な機能

8-1 キーロック機能

使用時や携帯時に誤ってキーやダイヤルが操作されることを防ぐ機能です。

8-1-1 キーロックの方法

［FUNC］キーを長押しするとキーロックがかかり、🔑 マークが点灯します。
再度、同じ操作をすると解除され、🔑 マークが消灯しキーロックが解除されます。

8-1-2 キーロック時にできる操作

電源のオンオフのほかに音量とスケルチの調整ができます。

8-2 スキャン機能

自動的に周波数を切り替えて、電波が出ている信号を探し出す機能です。
スキャン機能には下記の種類があります。

VFOスキャン	VFOモードで、バンド内の全周波数をAUTO設定、またはあらかじめ設定したステップでスキャンします。
メモリースキャン	メモリーモードで、メモリーに登録した周波数だけをスキャンします。
プログラムスキャン	スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。サーチと呼ばれることがあります。

●スキャン中の共通操作

- CNCL SCAN キーを押すとスキャンが止まります。
- スキャン中にダイヤルを回すとスキャン方向を変更できます。
- スキャン中にモニター機能を動作させると、その間はスキャンが一時停止します。モニター機能を解除するとスキャンを再開します。
- スキャンの開始方向は、最後にスキャンした方向によって決まります。
- スキャンを再開する条件を設定することができます。設定方法は「スキャンタイプ切り替え（☞P67）」をお読みください。

8-2-1 VFOスキャン

1 MW V/P/M キーを押してVFOモードにします。

2 CNCL SCAN キーを押したままダイヤルを回してディスプレイに「VFO」を表示させます。

3 CNCL SCAN キーを離すとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

4 CNCL SCAN キーを押すとスキャンを終了し、ドット点滅が止まります。

初期値では受信可能な全バンドをAUTO設定の受信モードとステップでスキャンします。

8

8-2-2 メモリースキャン

メモリースキャンには次の3種類があります。
通常メモリーとクイックメモリーバンク以外はスキャンできません。

単バンクスキャン	選んだ1つのバンクのみをスキャンします。
グループスキャン	前もって組み合わせした複数のバンクをスキャンします。
全バンクスキャン	全ての通常メモリーバンクとクイックメモリーバンクをスキャンします。

1 MW V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2 CNCL SCAN キーを押したままダイヤルを回して、スキャンの種類を選びます。

メモリースキャンの種類は次のとおりです。

- SINGLE ･････････ そのバンクだけをスキャン
- GROUP ･････････ 複数の指定したバンクをスキャン
  ※予め設定しておかないと表示されません。
  （☞P55）
- ALL ･････････････ 今のバンクから始めて全てのバンクをスキャン

3 CNCL SCAN **キーを離すとスキャンを開始します。**

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。
もう一度SCANキーを押すとスキャンが止まります。

注意
- スキャン中はキー操作ができない機能がたくさんあります。
キー操作がうまくいかないときは、MHz単位のドットを見て点滅していたらSCANキーを押してスキャンを止めてください。

8-2-3 プログラムスキャン（サーチ）

スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。設定した上限の周波数と下限の周波数をプログラムチャンネルやペアと呼びます。本機は50組のプログラムチャンネルを登録できます。「メモリーチャンネルの登録（☞P35）」をお読みください。あらかじめプログラムスキャン用バンクにデータを登録しておかないと、以下の操作はできません。

プログラムスキャン	選んだ1組のプログラムチャンネルの範囲をスキャンします。
プログラムグループスキャン	前もって組み合わせたプログラムチャンネルの範囲をスキャンします。（☞P55） 本書編集時の出荷用メモリーデータには4つ、グループ設定がされています。
全プログラムスキャン	すべてのプログラムスキャン用バンクの範囲をスキャンします。

1 MW V/P/M **キーを押してVFOモードにします。**

2 CNCL SCAN **キーを押したままダイヤルを回して「PRGRM」「PRGLNK」「PRGALL」の中から選択します。**

- PRGRM ····· プログラムスキャン
- PRGLNK ····· プログラムグループスキャン
- PRGALL ····· 全プログラムスキャン

3 CNCL SCAN **キーを離すとスキャンを開始します。**

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。
もう一度SCANキーを押すとスキャンが止まります。

注意
・スキャン中はキー操作ができない機能がたくさんあります。
キー操作がうまくいかないときは、MHz単位のドットを見て点滅していたらＳＣＡＮキーを押してスキャンを止めてください。

8-3 メモリースキャンとプログラムスキャンのリンク設定・確認機能

メモリースキャンとプログラムスキャンの時に、バンクまたはプログラムスキャン（PS)チャンネルを自由に組み合わせ、グループ化してスキャンすることができます。それぞれ9組まで設定できます。

(1) メモリーバンクのリンク

例：書き込み済のバンク５のバス・索道とバンク6のV/UHF船舶をグループ２に登録します。

VFOでもメモリーでも運用モードに関係なく操作できます。

1 **[FUNC]キーを押してディスプレイに F が点灯したら LINK 6 キーを押します。**

右のような表示が出ます。

2 **設定したいグループ番号を数字キー WILD1 1 ～ ANT 9 から選んで押します。**

・ここではグループ2にするので WILD2 2 キーを押します。GroUP番号が2に変わります。

3 **ダイヤルを回すとBK00の数字が変わります。リンクさせたいバンクの番号を選びます。**

・ここではBK005を選びます。

4 CHARGE ENT **キーを押します。BK05の後ろのX表示が○に変わります。**

5 **ダイヤルを回して次にリンクしたいバンク番号を選びます。**

・ここではBK06を選びます。

6 CHARGE ENT キーを押してXを○に変えます。

7 **5** と **6** を繰り返して対象のバンクを全て○に変えます。

8 リンク作業が終わったら[FUNC]キーを押します。

9 編集、解除するときは上記の操作を繰り返し、バンクを選んで CHARGE ENT キーを押して○もしくはXにします。全てXにすると CNCL SCAN キー押下時のGROUP＊表示が消えます。

(2) メモリーリンクスキャン操作

1 メモリーモードにします。

2 CNCL SCAN キーを押したままダイヤルを回します。

・SINGLE,ALLのほかにGROUP＊が表示されます。1から9まで、設定したグループ番号が表示されます。ここではＧＲＯＵＰ２を選んで指を離します。スキャンが始まります。

スキャン中の操作は通常のメモリースキャンと変わりません。

8

(3) プログラムスキャンペアのリンク

本書編集時、書き込み済のメモリーには下記のペアリンクが4つ設定済です。
LINK1 : PS 2/3/4/6/9/10 VHF各種業務
LINK2 : PS 11/12/13/15 UHFエアバンド
LINK3 : PS 16/17/18 UHF各種業務
LINK4 : PS 19/20/22 特定小電力無線

例：PSチャンネル１と21の144MHzと430MHzのアマチュア無線を5番にリンクします。

VFOでもメモリーでも運用モードに関係なく操作できます。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F が点灯したら LINK 6 キーを押します。

前項と同じGROUP＊とBK**表示が出ます。

2 SHIFT 0 を押すと右のようなプログラムスキャンのペアリンク設定画面に切り替わります。

設定したいPSL(リンク)番号を数字キー WILD1 1 ～ ANT 9 から選んで押します。

・SSPD 5 キーを押すとPSL(PSリンク)番号が5に変わります。

3 ダイヤルを回して関連付けしたい始めのPSチャンネル番号を選びます。

・PS01　Xを選びます。

4 CHARGE ENT キーを押すとXが○に変わります。

5 ダイヤルを回して次にリンクしたいPSチャンネルを選び CHARGE ENT キーを押します。

・PS021を選び CHARGE ENT キーを押して○にします。

6 操作を繰り返してリンクしたい番号を○にします。

7 [FUNC]キーを押すと確定して終了します。

8 編集、解除するときは上記の操作を繰り返し、チャンネルを選んで CHARGE ENT キーを押して○もしくはXにします。全てXにすると CNCL SCAN キー押下時のPRGLNK表示が消えます。

8

(4) プログラムリンクスキャン操作

1 VFOモードにします。

2 CNCL SCAN キーを押したままダイヤルを回します。

・VFO、PRGRM、PRGALLの他にPRGLNKが表示されます。ダイヤルでスキャンしたいリンク番号を選んで指を離します。

スキャン中の操作は通常のプログラムスキャンと変わりません。

8-4 盗聴器発見機能

盗聴器で使われていそうな周波数を自動的にスキャンして、盗聴器を探知する機能です。盗聴器があると判断すると、表示と警告音で知らせます。
本機には「SILENT」と「SOUND」の2モードあります。
また、自分でメモリーした任意のバンクを盗聴器発見機能用バンクと組み合わせて盗聴器の探知ができます。

「SILENT」と「SOUND」モードの切り替えはセットモード内の「盗聴器発見機能モードの切り替え（☞P75）」をお読みください。

参考

- 盗聴器発見の探知感度を設定できます。セットモード内の「盗聴器発見機能の感度設定（☞P74）」をお読みください。
- 盗聴器発見機能では、盗聴器発見機能用バンクと組み合わせたバンク内のメモリーチャンネルを探知します。「メモリーバンクのリンク（☞P56）」をお読みください。

注意

- これらの機能は簡易的なもので、セキュリティの安全を保障するものではありません。盗聴器を発見できなかったことに対する補償はご容赦ください。
- 弊社では、盗聴器発見や発見された盗聴器の処理などのサービスは一切行っておりません。また、そのような件に関するお問い合わせにはご返答致しかねます。
- これらの機能では、ノイズや受信場所の環境により誤動作が起こりがちですが、動作原理上避けられないものです。
- 産業スパイのようなレベルで情報を得ようとする人は、既に本機のような製品が販売されていることを熟知していて、発見されないような手段を使ったり電波ではなく別の方法で情報を収集したりすることもあります。情報が漏洩している確信があれば、興信所のようなプロにご相談ください。

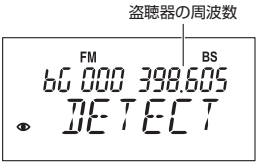
8-4-1 SILENTモードでの探知

信号を受信するとその受信音をスピーカーから出し、盗聴器であれば起こる「ハウリング」という現象の有無によって精度の高い探知をするモードです。初期状態ではこちらが設定されています。

●SILENTモードでの注意点

- このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- ノイズなどの影響で誤動作し、スキャンが止まることがあります。盗聴器であれば、ハウリング音に混じって必ず周囲からの音が聞こえます。

1 [MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押します。



ディスプレイに 👁 マークが点滅し、自動的にスキャンを開始します。スキャン中のビープ音はありません。盗聴器があると判断すると警告音をならし、ディスプレイに右のように表示します。
周囲の音がスピーカーから聞こえてくれば盗聴器が仕掛けられている可能性があります（音が大きくなるので注意してください。）。

2 ダイヤルを回して音量を調整できるようにしておきます。

本機でハウリングの音（キーン音）が発生するように音量を調整し、盗聴器を探します。このときスピーカーの開口部はふさがないでください。

3 本機をゆっくり動かします。

盗聴器に近づくとハウリングの音が発生しやすくなり、盗聴器から離れるとハウリングの音が発生しにくくなります。

4 再度、[MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押すと盗聴器発見機能を終了して、通常の受信モードに戻ります。

8-4-2 SOUNDモードでの探知

●SOUNDモードの特徴

DJ-X82から音を出し、盗聴器にその音を感知させ、その信号をDJ-X82が受信するまでの時間差を測り、盗聴器の探知と盗聴器までのおおまかな距離を判定します。盗聴器があると判断すると盗聴器までの距離を音と表示によって教えてくれるのが特徴です。探知中はピーと大きな音を立てます。

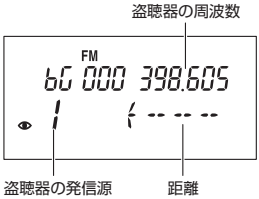
●SOUNDモードでの注意点

- このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- 盗聴器発見機能の有効距離は約1 ～ 5mです。
- 盗聴器発見機能は周囲の音や盗聴器の電波の強さ、マイク感度などに大きく影響されます。周囲環境により（音が反響しやすいところなど）誤動作または使用できない場合があります。
- 盗聴器探知中、本機を急に動かすと、ドップラー効果により誤動作します。
- スピーカーの向きと盗聴器の位置関係で正常に動作しないことがあります。
- 2300Hzの変調がある電波を受信しているときは、正常に動作しません。

1 [MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押します。

ディスプレイに 👁 マークが点滅し、自動的にスキャンを開始します。スキャン中は連続した「ピー」音が出ます。
指定した範囲のスキャンを行って一定時間が経過しても見つからないときは「STOP」と表示して、探知を終了します。

2 DJ-X82をゆっくり動かしながら盗聴器がありそうな場所を探します。



盗聴器があると判断すると「ピッ･ピッ･ピッ」と音が出ます。
本機が盗聴器に近づくと矢印が長くのびて音の間隔が短くなり、盗聴器から離れていくと矢印が短く縮んで、音の間隔が長くなります。

3 再度、[MONI]キーを押しながらダイヤルを長く押すと盗聴器発見機能を終了して、通常の受信モードに戻ります。

注意

- 盗聴器によく使用されている周波数の他に、探知したい周波数を盗聴器発見用バンクと組み合わせて盗聴器の探知を行ったときは、スキャン時間が長くなる場合があります。（☞P56）
- セットモードのＳＮＤ項目にあるビープ音機能の解除の初期値オンを変更して、オフ（鳴らない）にすると、この機能の探査音「ピー」も鳴らなくなります。

9. セットモード

各種機能を用途にあわせて変更することで本機をより使いやすくすることができます。
セットモードでは、次の項目をカスタマイズできます。
項目の目次を「メニュー」、その下にある設定項目を「サブメニュー」と呼びます。

- 表示設定 <DISP> ── メニュー
  - 照明設定 ── サブメニュー
  - コントラスト設定
- 電源設定 <POW>
  - 電池の種類設定
  - 減電池警告音設定
  - オートパワーオフ
- 国際VHF(マリン無線)の設定 <MRN>
  - 呼び出しチャンネル(CH16)自動引き戻し機能
    - ・電源ONするとき
    - ・時間経過
- スキャン設定 <SCAN>
  - スキャン停止時間設定
  - スキャンタイプ切り替え
  - プライオリティ待ち受け時間設定
  - プライオリティ停止時間設定
  - スキップスキャンの動作
- キー操作設定 <KEY>
  - MONIキー動作の設定
  - モニター/ミュート機能の設定
  - ワイルドキー（1・2）への機能割り当て
  - ダイヤル速度
  - キーロックのダイヤル操作
- メモリー設定 <MR>
  - メモリー保護機能
- 音設定 <SND>
  - ビープ音機能の解除
  - ベル機能
  - イヤホン断線検知機能
- 盗聴器発見機能設定 <BUG>
  - 盗聴器発見機能の感度設定
  - 盗聴器発見機能のタイプ切り替え

【重要】
本項目で説明する全ての操作の基本です。
繰り返しになるので以降のページではこの操作は省略しています。
分からなくなったらこのページを改めてお読みください。

セットモード共通の操作

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに **F** を点灯させます。

2 ダイヤルを押すとセットモードになります。<DISP>のような表示が出ます。

3 リングを回して、セットモードのメニューを選択します。

4 ダイヤルを押すと、サブメニューが表示されます。

5 リングを回してサブメニューを選択し、ダイヤルを回して設定を変更します。

6 [MONI]キーを押すとメニュー選択画面に戻ります。**3** ～ **5** の操作を繰り返して複数の設定ができます。

7 [FUNC]キーを押すと設定内容を確定してセットモードを終了します。

9-1 表示設定

この項目はディスプレイ表示や照明の設定を行います。

1 セットモードのメニューから<DISP>を選択します。(☞P62)

2 ダイヤルを押すと、表示設定のサブメニューに入ります。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<DISP>に戻れます。

9-1-1 LAMP動作の選択

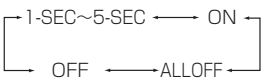
ディスプレイの照明に使っているランプの点灯・消灯の動作を設定します。照明を多用すると電池を早く消費します。

1 リングを回して「LAMP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと右の図のように切り替わります。

初期値は5-SECです。



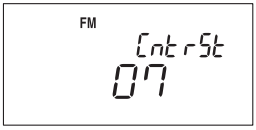
OFF	ランプを点灯させません。
1-SEC ～ 5-SEC	本機を操作すると、1 ～ 5秒間ランプが点灯します。
ON	ランプを常に点灯させます。

9-1-2 コントラスト設定

ディスプレイの濃さを見やすくなるように変更できます。

1 リングを回して「CntrSt」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと1 ～ 10の範囲で設定できます。

初期値は7です。

9-2 電源設定

この項目では電源関連の設定を行います。

1 メニュー画面でリングを回して<POW>を選択します。(☞P62)

2 ダイヤルを押すと、電源設定のサブメニューに入ります。

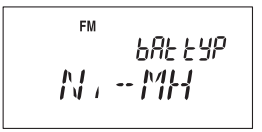
[MONI]キーを押すとメニュー画面<POW>に戻れます。

9-2-1 電池の種類設定

正しく動作させるため、お使いの電池に合わせてください。誤った設定にしても故障の原因にはなりませんが、減電池表示が不正確になり、実際に電池の残量が十分にあっても、減電池表示が出たりすることがあります。

1 リングを回して「bAttyP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと電池の種類の設定を変更できます。

初期値はNi - MHです。

Ni - MH	ニッケル水素バッテリー
LR6 - AA	単三形アルカリ乾電池 / リチウム乾電池

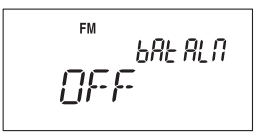
※マンガン乾電池もAAですが、電池の持ちが悪いので推奨していません。

9-2-2 減電池警告音設定

電池が減って電源が切れる前に「ピーピー」と鳴って電池交換を音で知らせます。

1 リングを回して「bAtALM」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと「OFF」⟷「ON」を設定できます。

「OFF」にすると電池が減っても音が鳴りません。
初期値はOFFです。

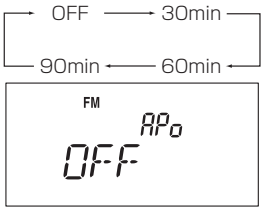
9-2-3 APO機能

オートパワーオフ（お休みタイマー）です。設定した時間、無操作状態が続くと、ビープ音が鳴り自動的に電源が切れます。

1 リングを回して「APo」を選択します。

2 ダイヤルを回すと表示が変わり、時間設定ができます。30分、60分、90分とOFFが選択できます。

ディスプレイに右のように表示されます。
時間を設定すると受信画面にもAPOが点灯します。初期値はOFFです。



再び電源を入れるには、もう一度電源スイッチを押してください。

参考
- 信号を受信しているだけではAPO時間は延長されませんが、キー操作を行うと、カウントがリセットされ、改めてタイマーが動作します。
- スキャン・プライオリティ・盗聴器発見機能が動作しているときはタイマーが動作しません。

9

9-3 国際VHF(マリン無線)の設定

この項目では国際VHF（マリン無線）を快適に受信するための設定をおこないます。

1 メニュー画面でリングを回して<MRN>を選択します。（☞P62）

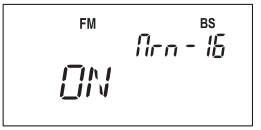
2 ダイヤルを押すと、マリン無線のサブメニューが表示されます。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<MRN>に戻れます。

9-3-1 呼び出しチャンネル（CH16）自動引き戻し機能

マリン無線のCH16は呼出・応答・非常連絡用のメインチャンネルで、船舶は常にこのチャンネルを受信、通話するときだけ別のチャンネルに移ります。ここではCH16への自動復帰条件が選べます。

(1) 電源が入ったときに移動する

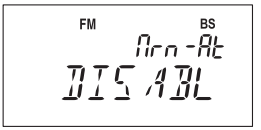


1 リングを回して「Mrn-16」を選択します。

2 ダイヤルを回すと「OFF」←→「ON」を設定できます。

ONを選ぶと、本機の電源を入れるたびに前のチャンネル設定に関係なく、WILD 1キーに割り当てのマリン無線モードはCH16で起動します。初期値はOFFです。

(2) 通信が無い一定の時間が過ぎるとCH16に復帰する



1 リングを回して「Mrn-At」を選択します。

2 ダイヤルを回すと「DISABL」←→「5−SEC」〜「10−MIN」を設定できます。

SECは秒、MINは分を表します。初期値はDISABLです。

DISABL	常に受信中のチャンネルにとどまります。
「5−SEC」〜「10−MIN」	スケルチが閉じてから、設定時間が経過すると自動的にCH16に戻ります。

9-4 スキャン設定

本機に搭載されている様々なスキャン機能の設定を行います。

1 メニュー画面でリングを回して<SCAN>を選択します。（☞P62）

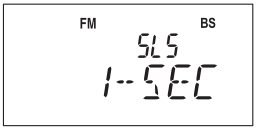
2 ダイヤルを押すと、スキャン設定のサブメニューに入ります。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<SCAN>に戻れます。

9-4-1 スキャン停止時間設定

スキャン中に受信した信号が無くなったとき、もう一度スキャンを開始するまでの時間を設定します。

1 リングを回して「SLS」を選択します。



2 ダイヤルを回すと「1−SEC(1秒)」〜「60ーSEC(60秒)」の範囲で設定できます。

スキャン中にスケルチが開いて止まってから、もう一度スキャンを開始するまでの時間が設定できます。無線のジャンルや通信方法、自分の好みに合わせて設定します。初期値は2-SECです。

9-4-2 スキャンタイプ切り替え

スキャンの再開条件を選びます。

1 リングを回して「SCtyP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「BUSY」⟷「1SECT」〜「25SECT」が表示されます。

「BUSY」はビジースキャンモード、「1SECT」〜「25SECT」はタイマースキャンモードです。下の表を参考にお好みの設定にします。初期値はBUSYです。

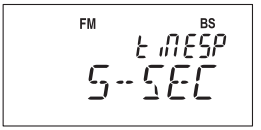
ビジースキャンモード	スキャン停止後、信号が無くなってからSLS項目で設定の時間が経過すると再開します。
タイマースキャンモード	スキャン停止後、信号があっても設定時間が経過するとスキャンを再開します。 タイマーの時間は「1SECT」(1秒)〜「25SECT」(25秒)の間で設定が可能です。

9-4-3 プライオリティ待ち受け時間設定

プライオリティ機能でのメインチャンネルの待ち受け時間を選択します。

1 リングを回して「tiMESP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと「5−SEC(5秒)」〜「10−MIN(10分)」の範囲で設定できます。

初期値は5-SECです。

9-4-4 プライオリティ停止時間設定

プライオリティ機能でプライオリティチャンネルを受信したときに停止する時間を選択します。

1 リングを回して「tiMEPr」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「BUSY」⟷「1-SEC」〜「10−MIN」が表示されます。

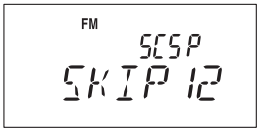
「BUSY」はビジースキャンモード、「1-SEC」〜「10−MIN」はタイマースキャンモードです。下の表を参考にお好みの設定にします。初期値はBUSYです。

ビジースキャンモード	プライオリティ CHの信号がなくなればスキャンを再開します。
タイマースキャンモード	プライオリティ CHを受信中でも設定時間が経過するとスキャンを再開します。 タイマーの時間は「1-SEC」(1秒)〜「10−MIN」(10分)の間で設定が可能です。

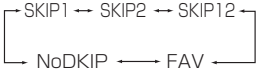
9-4-5 スキップスキャンの動作

1 **リングを回して「SCSP」を選択します。**

初期値はSKIP12です。



2 **ダイヤルを回すと表示が図のように切り替わります。**



スキャンスキップやお気に入り選択に関する動作設定です。どのバンクに入れたスキップチャンネルやスキップ指定を飛ばしてスキャンするかを選択できます。

SKIP1-	サーチパスメモリーバンク(PA)の周波数とスキップ指定したチャンネルをスキップします。
SKIP-2	クイックサーチパスメモリーバンク(P2)の周波数とスキップ指定したチャンネルをスキップします。
SKIP12	サーチパスメモリーバンクとクイックサーチパスメモリーバンクの周波数とスキップ指定したチャンネルをスキップします。
FAV (FAVorite)	メモリーチャンネルに登録されたチャンネルの中でお気に入り登録(メモリーチャンネルを選択し、MW/WPM キーを長押しし✱が表示された状態)されたチャンネルのみスキャンします。
NoSKIP	一切のSKIP/FAVを無視して全CHをスキャンします。

9-5 キー操作設定

1 **メニュー画面でリングを回して<KEY>を選択します。(☞P62)**

2 **ダイヤルを押すと、キー操作のサブメニューが表示されます。**

[MONI]キーを押すとメニュー画面<KEY>に戻れます。

9-5-1 MONIキー動作の設定

1 リングを回して「Moni」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回して「PUSH」⟷「HOLD」を選びます。

初期値はPUSHです。

PUSH	［MONI］キーを押しているときだけモニター機能、またはミュート機能が動作します。
HOLD	［MONI］キーを押し、もう一度押すまでモニター機能、またはミュート機能が動作します。

9-5-2 モニター／ミュート機能の設定

1 リングを回して「Moni」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回して「MONI」⟷「MUTE」を設定できます。

初期値はMONIです。

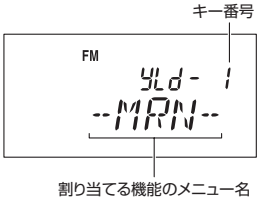
MONI	[MONI]キーを押すと一時的にスケルチを開けます。
MUTE	[MONI]キーを押すと一時的に音を消します。

9-5-3 ワイルドキー（1・2）への機能割り当て

WILD1 1 キーと WILD2 2 キーにセットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。よく使うメニューを設定しておくと素早く設定の変更ができるようになります。

1 リングを回して「yLd-1」もしくは「yLd-2」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。
WILD1 1 キーの場合はyLd-1、WILD2 2 キーの場合はyLd-2を選択します。



2 ダイヤルを回すと WILD1 1 キーと WILD2 2 に割り当てられる機能が表示されます。

初期設定はマリン無線受信とメモリー保護機能です。

9-5-4 ダイヤルターボ機能

ダイヤルを早く回したとき通常よりも早く数値が動く機能です。

1 リングを回して「diAL」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「NORMAL」⟷「TURBO」を設定できます。

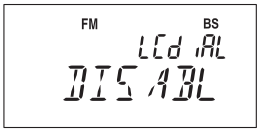
TURBOにしてダイヤルをひねるように素早く回転させると大幅に周波数が変えられますが、ダイヤル部品に負荷がかかるので数字キーやENTキー操作も併用してください。初期値はNORMALです。

9-5-5 キーロック中のダイヤル操作

キーロック中にダイヤル操作を有効にできます。

1 リングを回して「LCdiAL」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと「DISABL」⟷「ENABLE」が設定できます。

初期値はDISABLです。ENABLEにするとダイヤル操作ができます。

9-6 メモリー設定

1 メニュー画面でリングを回して<MR>を選択します。(☞P62)

2 ダイヤルを押すと、メモリー設定サブメニューに入ります。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<MR>に戻れます。

9-6-1 メモリー保護機能

メモリーモードに登録されているチャンネルを編集(上書き、消去)できなくして、登録データを保護します。

1 リングを回して「ProtCt」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すとONとOFFが切り替わります。

初期値はOFFで編集できます。ONにすると登録データを保護します。
無償の編集ソフトにデータを保存しておけば誤って上書きしたり消したりしてもすぐに復旧できます。
編集ソフト使用時は一切の保護がかかりません。

9-7 音操作

1 メニュー画面でリングを回して<SND>を選択します。(☞P62)

2 ダイヤルを押して、音設定のサブメニューに入ります。

[MONI]キーを押すとメニュー画面<SND>に戻れます。

9-7-1 ビープ音機能の解除

キー操作を行ったときになる音をビープ音と呼びます。この音を鳴らないようにすることができます。

1 リングを回して「bEEP」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「ON」⟷「OFF」を設定できます。

OFFにするとビープ音はなりません。初期値はONです。

注意

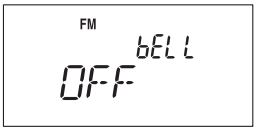
・この設定をOFFにするとAPOのタイムアウト時のアラームやベル機能のベル音、盗聴器発見機能のＳＯＵＮＤ音など、音でお知らせするものは一切鳴りません。

9-7-2 ベル機能

着信を音とベルマークでお知らせします。

1 リングを回して「bELL」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと「OFF」⟷「ON」を設定できます。

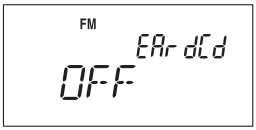
ONにするとディスプレイに が点灯します。信号を受信すると が点滅し、ベル音が鳴ります。次にキー操作を行うまで は点滅しているため不在のときに信号を受信したことがわかる「着信確認」としても使えます。初期値はOFFです。

9-7-3 イヤホン断線検知機能

電源を入れたときに、イヤホンが断線していたらビープ音と表示（「DANSEN」と表示）で知らせる機能です。

1 リングを回して「EArdCd」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと「OFF」←→「ON」を設定できます。
初期値はOFFです。

9-8 盗聴器発見機能設定

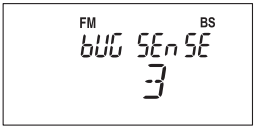
1 メニュー画面でリングを回して<BUG>を選択します。(☞P62)

2 ダイヤルを押すと、盗聴器発見機能のサブメニューが表示されます。
[MONI]キーを押すとメニュー画面<BUG>に戻れます。

9-8-1 盗聴器発見機能の感度設定

盗聴器発見機能の探知感度を変更できます。

1 リングを回して「bUG SEnSE」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回すと1～5までの範囲で感度を設定できます。
初期値は3です。
盗聴器発見機能の感度は「1」高い←→「5」低いの順で設定できます。

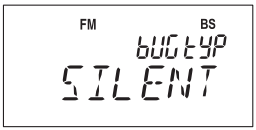
注意
- 感度を高くすると、誤動作を起こしやすくなります。
- 徐々に値を大きくして感度を下げ、盗聴器の設置場所を絞り込みます。
- SOUND/SILENT両方に反映されます。盗聴器の種類や探知する部屋の環境など様々な要因で検知精度が変わることがあるため変更できるようになっています。感度が高すぎると誤動作しやすく、低すぎると正しく検知できないことがあります。

9-8-2 盗聴器発見機能モードの切り替え

盗聴器発見機能の探知方式を設定します。

1 リングを回して「bUG tyP」を選択ます。

ディスプレイに右のように表示されます。



2 ダイヤルを回して「SILENT」⟷「SOUND」を選択します。

盗聴器発見機能の詳細は「盗聴器発見機能（☞P59）をご覧ください。
初期値はSILENTです。SOUNDは上級者向けの機能です。

10. チャンネル表示モード

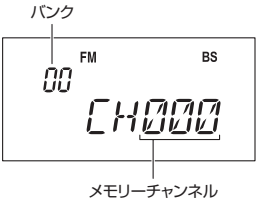
メモリーモードで、周波数のかわりにバンク・チャンネル番号のみを表示し、その他の機能も制限したモードです。業務用の「受令機」モードです。

1 **あらかじめメモリーを登録しておきます。**

2 **メモリーモードにして電源を切ります。**

3 **［MONI］キー、MW V/P/M キーと RADIO 7 を押しながら電源を入れます。**

ディスプレイに右のように表示されます。
同じ操作を行うと解除できます。



参考

- チャンネル表示モード時は、バンク・チャンネルの変更、音量調整、スケルチ調整、MONI/MUTE機能、メモリースキャン、キーロック以外の操作はできません。
- この状態では、一切のリセット操作を受け付けません。
- 受令機は業務無線で「通話は不要だが、受信だけはする必要がある」ユーザーに渡される受信端末です。例えば消防団員に配備される消防無線を受信する端末などがあります。

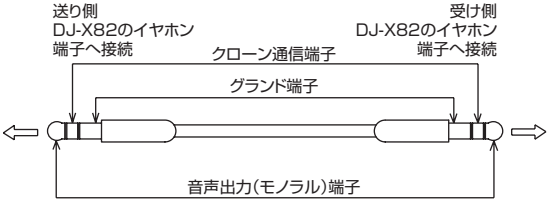
11. クローン／ PC接続機能

クローン機能とは、1台のDJ-X82のデータを別のDJ-X82へコピーする機能です。
2台のDJ-X82を市販のケーブルで接続し、送り側に設定している情報を受け側へコピーをします。PCがない場所でもデータ交換などができます。
また、PC接続機能によりDJ-X82を付属のUSBケーブルを用いてパソコン(PC)に接続して、専用編集ソフトでメモリーチャンネルや各機能を設定、保存、書き込みできます。

11-1 クローン時の接続方法

この作業を行うときは、必ず本体の電源を切った状態で行ってください。
図のように、送り側のイヤホン端子と受け側のイヤホン端子を市販のφ3.5mmのステレオミニプラグコードで接続します。

●3極ステレオミニプラグコード



＊ステレオミニプラグコードは、内部抵抗のない直結タイプを使用してください。
家電量販店、ホームセンターなどで簡単に入手できます。

編集ソフト使用時は付属のUSBケーブルでPCと本機を接続します。
このオーディオケーブルは不要です。

11-2 データを受け取る側の操作

別のDJ-X82からデータをコピーする場合や、パソコンで編集したデータを受け取るときに、この操作を行います。

1 電源を切ります。クローン時はステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。PC使用時は付属のUSBケーブルをPCとUSBポートに接続します。

2 ［MONI］キーを押しながら ⏻ キーを押して電源を入れます。

ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。PC編集時の操作はこれ以降、ソフト側の説明書をお読みください。

3 この状態で送り側のDJ-X82あるいはPCからのデータが送られてくるのを待ちます。

クローン時のみ次項の「 データを送る側の操作」をお読みください。

4 データの転送が完了すると「FINISH」と表示されるので表示を確認してから本体の電源を切ります。

注意

- クローン機能でデータ転送中に何かキーを押すとデータ転送が中断されます。転送を再開するときはダイヤルを押してください。
- データ転送中はケーブルを抜かないでください。ケーブルが抜けると送り側でディスプレイに「FAIL」と表示され、データ転送が中断されます。一度電源を切って、改めて始めからやり直してください。
- データ転送をすると、受け側のデータ内容はすべて送り側のデータ内容に置き替わってしまいます。受け側にデータがある場合は注意してください。メモリー保護は動作しません。

11-3 データを送る側の操作

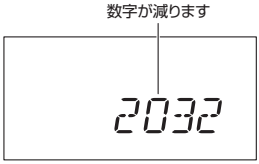
この操作はPC接続には不要です。

1 **電源を切ってステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。**

2 **［MONI］キーを押しながら ⏻ キーを押して電源を入れます。**

ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。

3 **「CLONE」と表示された状態でダイヤルを押すとディスプレイに右のように表示されデータを受け側へ転送します。**



4 **転送が終わるとディスプレイに「FINISH」と表示されます。**

ディスプレイに「FAIL」と表示された場合は再度、手順１からやり直してください。FAILが出ても故障の原因にはなりません。

5 **電源を切ります。**

電源を切らないとクローンモードは解除されません。

12. リセット機能

操作が分からなくなったとき、いつもと違う動作をするとき、「故障かな？」と思われたときはまずリセットしてください。メモリーデータは消えません。

12-1 リセットとメモリーデータについて

1 **［FUNC］キーを押しながら ⏻ キーを押して電源を入れます。**

2 **ディスプレイにすべての表示が点灯したら指を離します。**

初期設定のVFOモードになります。
全てのセットモードや数字キー割り当て機能が初期化され、145.000（MHz）のVFOモードで起動します。

参考

メモリーデータのバックアップについて

本機は一度消したデータを操作で復旧することはできません。パソコンをお持ちであればあらかじめバックアップ用データを保存することをお勧めします。

①保存したいメモリーデータを作ります。
②専用編集ソフトを弊社ホームページ（https://www.alinco.co.jp/ → 電子事業部 → ダウンロード → 受信機）よりダウンロードして、ソフト側の説明書を読んで準備します。
③付属のUSBケーブルでパソコンと本機を接続して、保存しておきたいメモリーデータを読み込み、そのデータに適当な名前を付けてPCに保存します。データが消えたときはそれを書き戻します。メモリーデータは好きなだけ編集して保存できるので「関東圏エアバンド」「航空祭」「鉄道無線」のようなデータを編集して使い分けることができます。

パソコンをお持ちでないときは 弊社にお送り頂けば、往復運賃のみお客様のご負担で、弊社のメモリーデータを再書き込みします。本書裏表紙のサービス窓口までお問い合わせください。弊社HPのFAQでもご依頼方法を案内しています。
「アルインコ電子事業部FAQ受信機」で検索、「【受信機】メモリー周波数を誤って消してしまいました。」の項目をお読みください。お客様がご自分で編集・登録されたデータの修復やお客様ご依頼のデータ作成はできません。

13. 保守・参考

13-1 故障とお考えになる前に

次のような症状は故障では無いことがあります。

症状	原因	処置
電源ボタンを押しても、ディスプレイに何も表示されない。	電池が接触不良をおこしている。	本機の電池接触部と電池の電極を清潔な綿棒で拭く。
	電池が消耗している。	充電をするか乾電池を新品に交換する。
	電源スイッチの操作不良。	しっかり力を入れて電源が入るまで押し続ける。
スピーカーから音が出ない。 受信できない。	音量が低すぎる。	音量を上げる。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なスケルチレベルに設定するかリセットする。
	ミュート機能が働いている。	ミュート機能を解除するかリセットする。
	アッテネーターが働いている。	アッテネーターを解除するかリセットする。
周波数表示が異常になっている。	電源電圧低下等によりCPUが誤作動している。	外部電源および電池を外し、10秒以上待ってから取り付ける。それでも解決しないときはリセットする。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える位置に設定する。
キー操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。 [FUNC]キーを長押しして鍵マークを消す。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電をするか乾電池を新品に交換する。
充電しない。	充電器の充電端子が汚れている。充電設定がOFFになっている。 EBP179以外を装着している。	清潔な綿棒で充電端子や充電池側の接触部分の汚れをふき取る。 充電設定を見直すかリセットする。 EBP-179を使用する。

処置をしても異常が続くときは、P80の通常リセットをすることで症状が回復する場合があります。

アフターサービスやサポートは次ページの「アフターサービスについて」をご覧ください。

13-2 オプション一覧

・ニッケル水素バッテリー (EBP-179：1.2V-1900mAh×2)
・充電スタンドセット(EDC-197A)
・カールコードイヤホン(EME-26)
・耳掛けイヤホン(EME-50)
・ストレートケーブルイヤホン(EME-6)
・ソフトケース（ESC-68）

13-3 アフターサービスについて

■保証書

保証書は、所定事項（ご購入店名、ご購入日）の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。ご購入時の記載、またはご購入を証明できるレシート等の書類が無い場合は理由を問わず保証点検の対象外とさせていただきます。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常な使用状態で期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって点検修理いたします。

■保証期間が経過した場合

販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。
アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

■製造終了製品に対する保守年限に関して

生産終了後も5年間は最低限の動作をさせるためのバッテリーなどアクセサリーと修理用の保守部品を用意しています。但し災害など不測の事態により在庫が無くなる場合もありますのでご了承願います。
また保守期間を過ぎても可能な限り修理点検のご相談を承っております。

■製造番号のラベルは重要です。

本機の背面に貼られた銀色の銘板ラベルは絶対にはがしたり汚したりしないでください。不正規品としてアフターサービスの対象外となります。製造番号が読めなくなる位置に、ステッカーや飾りを貼り付けないでください。修理の際に支障が有れば、サービスセンターで破棄しますのであらかじめご了承ください。

※保証に関することとサービスセンターのご利用については弊社ホームページ（https://www.alinco.co.jp/ → 電子事業部 → FAQ ）にFAQを設けて必要な情報を掲載しておりますのでご参照ください。

参考

●全てのメモリーチャンネルの消去を含むオールリセットの方法

通常のリセットはP80に記載があります。オールリセットはメモリーを全て手操作で入力するなど、明確な意図を持って行う上級者向けです。通常は使いません。
オールリセット後は、すべてのメモリーが消去され、復元できません。

① メモリー保護機能の設定を「OFF」にします。
② [FUNC] キー・NAME キー・MW V/P/M キーを押しながら電源を入れます。

●エキスパート・セットモードについて

上級者が機能の意味や使い方を分かって設定する上級者向けメニューを使うには、下記の操作でエキスパート・モードにします。
意味が分からず設定するとかえって使いにくくなったり、電池の消費が増えたりするなどの不都合が出ます。増えたメニューの詳細については弊社ホームページ
(https://www.alinco.co.jp/division/electron/index.html >ダウンロード>受信機(ワイドバンドレシーバー)>DJ-X82をご覧ください。

① MW V/P/M キーを操作して、VFOモードにします。
②[FUNC]キーを長押ししてキーロックしたら、素早く[FUNC]キーを6回続けて押します。
操作ビープ音の後に「ピ」と鳴って表示左上に「E」が表示されます。

- セットモード操作をすると本書で説明していないメニュー項目が増えています。
- 同じ操作をすると設定した内容は登録されたまま、エキスパート・モード表示Eと拡張項目を隠すことができます。ひんぱんに変更しない項目なので、セットモードメニューが増えないほうが使い勝手が良いためです。
- 設定変更するには再度エキスパート・モードに入って操作します。
- 電源を切ってFUNCキーを押しながら電源を入れる通常リセットをすればエキスパート・モードの設定も全て削除、初期化されます。

14. 索引

英数字

ACアダプター ····· 20
AM ····· 45
APO ····· 65
BAND ····· 22, 24
BEEP ····· 73
BELL ····· 73
FM ····· 45
FUNC ····· 23
GROUP ····· 56
HOLD ····· 28, 70
JR ····· 50
LAMP ····· 22, 63
MONI ····· 23, 28, 70
PC接続 ····· 77
PRGRM ····· 55
PRI ····· 51
PWR ····· 23
SCAN ····· 53
SILENT ····· 59, 60
SKIP ····· 39, 69
SMA ····· 22
SOUND ····· 59, 60
SPd ····· 46
SSPD ····· 46
USBポート ····· 23
VFOスキャン ····· 53, 54
VFOモード ····· 30
V/P/M ····· 24
WAV ····· 44
WILD ····· 71

あ行

アッテネーター（ATT） ····· 45
イヤホン端子 ····· 22
音量 ····· 26, 53, 79

か行

外部アンテナ ····· 17
キーロック ····· 53
空線信号キャンセラー ····· 50
クローン ····· 77

さ行

サーチバス ····· 34
残量表示 ····· 18, 25
充電 ····· 18, 20, 21
充電スタンド ····· 20, 21
周波数シフト ····· 48
受信モード ····· 44
スキップスキャン ····· 69
スキャン ····· 53
スキャンスピード ····· 46
スキャンタイプ ····· 67
スケルチ ····· 27
ストラップ ····· 19
スピーカー ····· 22
セットモード ····· 62
全バンクスキャン ····· 54

た行

タイマースキャン ····· 67
ダイヤル ····· 22
単バンクスキャン ····· 54
チャンネルステップ周波数 ····· 32
チャンネル表示モード ····· 76
定格 ····· 86
ディスプレイ ····· 22
データ転送 ····· 78, 79
電池 ····· 17, 18, 50
盗聴器発見機能 ····· 59

な行

ニッケル水素バッテリー ····· 18, 20, 50

は行

ハウリング ····· 60
バッテリーセーブ ····· 47
バンク ····· 33, 34
ビープ音 ····· 73
ビジースキャン ····· 67
ファンクションキー ····· 23
付属品 ····· 2, 17
プライオリティ ····· 51
プログラムスキャン ····· 55
ベル機能 ····· 73
ベルトクリップ ····· 19

ま行

ミュート ····· 28, 70
メモリースキップ ····· 39
メモリースキャン ····· 53, 54
メモリーチャンネル ····· 35
メモリーネーム ····· 40
メモリーバンク ····· 34
メモリー保護 ····· 72
メモリーモード ····· 29, 33, 53
モニター ····· 28, 70

ら行

ランプ ····· 63
リセット ····· 80

わ行

ワイルドキー ····· 71

15. 定格

周波数範囲		108.000 ～ 141.975MHz /142.000 ～ 148.000MHz 148.010 ～ 169.990MHz /170.000 ～ 322.000MHz 322.025 ～ 322.400MHz /332.500 ～ 429.9875MHz 430.000 ～ 439.980MHz /440.000 ～ 469.9875MHz FMラジオ放送 76.000 ～ 108.000MHz
電波の型式	AM	A3
	FM/WFM	F3
アンテナインピーダンス		50Ω不平衡 SMA端子
電源電圧	外部端子/電池端子	USB 5V / 2.4 ～ 3.0V
消費電流	受信定格出力時	約150mA
	待受け時	約90mA
	バッテリーセーブ時	約47mA
周波数安定度		±1.5ppm（使用温度範囲：－10℃～ +60℃）
外形寸法		58W×96H×31D（突起物除く）
重量		約200g（EBP-179、アンテナ含む）
受信方式	FM/AM	トリプルスーパーヘテロダイン
	WFM	ダイレクトコンバージョン
中間周波数 (FM/AM)	1st	243.95MHz
	2nd	50.85MHz
	3rd	450kHz
受信感度（代表値）	FM（12dB SINAD）	-8dBμV以下
	WFM（12dB SINAD）	0dBμV以下
	AM（10dB S/N）	1dBμV以下
選択度	FM/AM	50dB以上
低周波出力		最大100mW以上（8Ω時）

【メモ】

■ 仕様・定格は予告なく変更する場合があります。

■ 本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる、一部の表示を省略している、等の場合があります。

■ 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。

アルインコ株式会社 電子事業部

支店・営業所とサービスセンター（SC）

東京	〒103-0027	東京都中央区日本橋2丁目3番4号　日本橋プラザビル14階	TEL.03-3278-5888
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2丁目2番24号　いちご丸の内サウスビル3階	TEL.052-212-0541
大阪/SC	〒541-0043	大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号　淀屋橋ダイビル13階	TEL.06-7636-2361
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号　エコービル2階	TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店またはフリーダイヤル　0120-464-007

全国どこからでも無料でサービス窓口につながります。

受付時間/月曜～金曜10-12時、13-17時（土日祝・休業日は除きます。）

ホームページ　https://www.alinco.co.jp/　＞事業案内＞電子事業部 をご覧ください。

Copyright Alinco,Inc.

PW0030

FNFH-NL